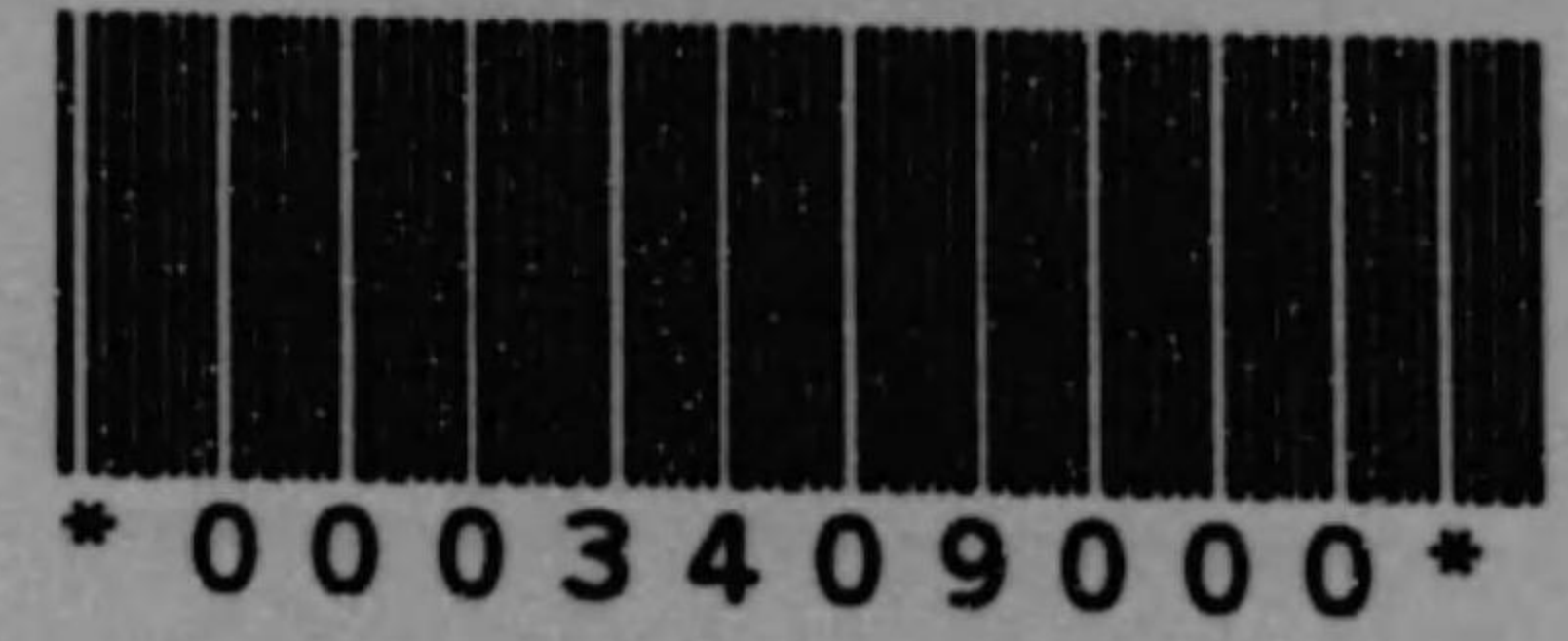


特 242  
987



0003409-000

特 242-987

戦争に勝つ政治

中野正剛・著

武蔵野書房

2版  
昭和18

ABA

特 242  
987

# 戦に争戦

# つ 政治

中野正剛 著

書野藏武

特 242  
987

中野 正剛 著

# 太閤秀吉

— 秀吉論の最高峰 —

國民的英雄秀吉を凡ゆる角度より探究し、秀吉の雄大なる理念を偲びて今日を想ふ紙背に漲る著者の熱情は、讀者をして感奮興起せしむるであらう。

好評増刷出來

正に日本人の書！

東京都赤坂區溜池町三〇  
振替東京一七一—一九番 東方同志會出版局

B六判四二〇頁  
定價二・五〇  
送料 二〇

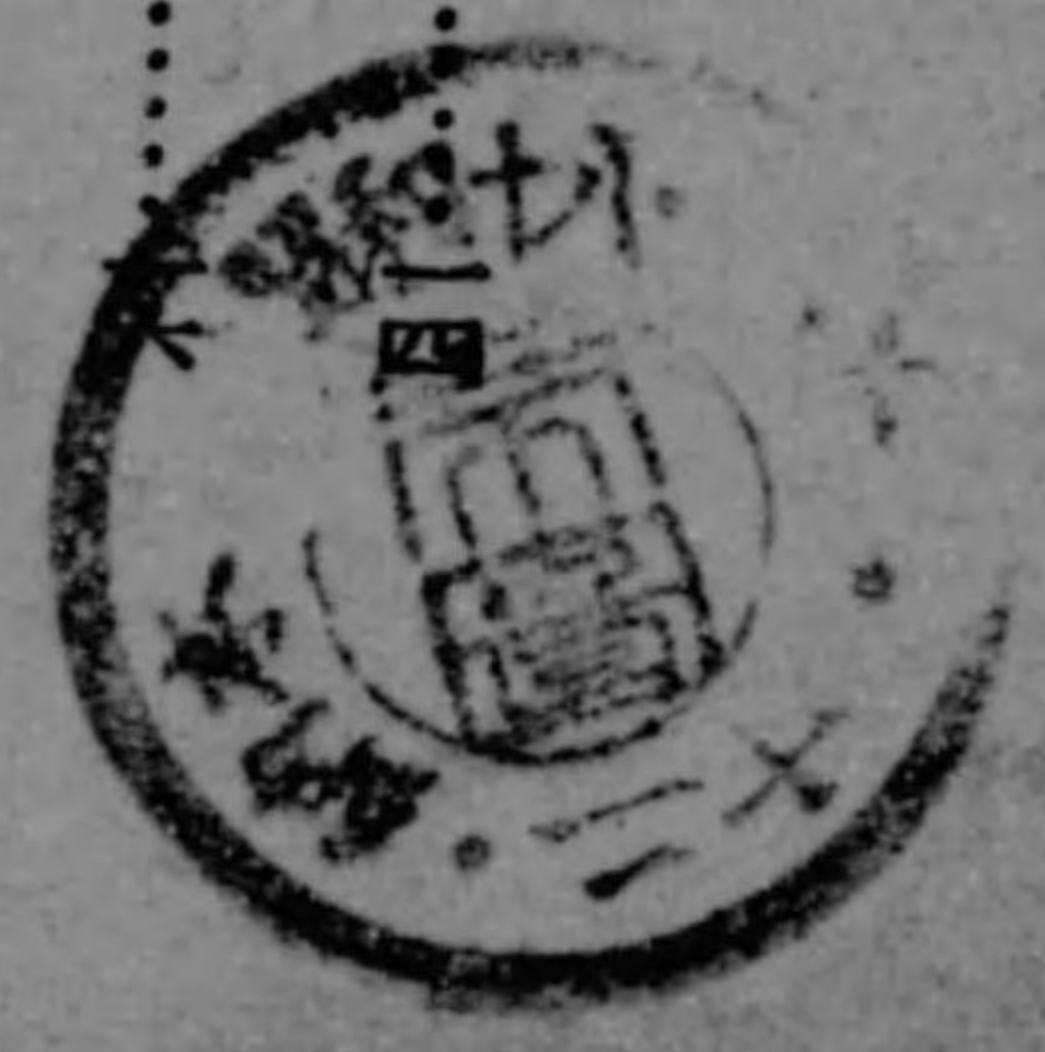
## 戦争に勝つ政治

目

次

一、長期戦に於ける政治力の要請	三
大東亞長期戦の形體	三
尊君の赤誠を汲み上げよ	五
二、君民一體有機的皇道國家の完成	二〇
明治維新の精神	二〇
責任をとる指導者	二三

行政に先行する政治	二四
國民は陛下の直參	二四
三、道義的矜持による東亞諸民族の指導	二九
前線將兵の本能	二九
奪掠・搾取・貪慾を破るもの	三二
四、萬民奉仕經濟體制の確立	三一



特 242  
987

中野正剛著

# 太閤秀吉

—秀吉論の最高峰—

國民的英雄秀吉を凡ゆる角度より探究し、秀吉の雄大なる理念を偲びて今日を想ふ紙背に漲る著者の熱情は、讀者をして感奮興起せしむるであらう。

正に日本人の書！

東京都赤坂區溜池町三〇  
振替東京一七一—一九番

東方同志會出版局

B六判四二〇頁  
定價二・五〇  
送料 二〇

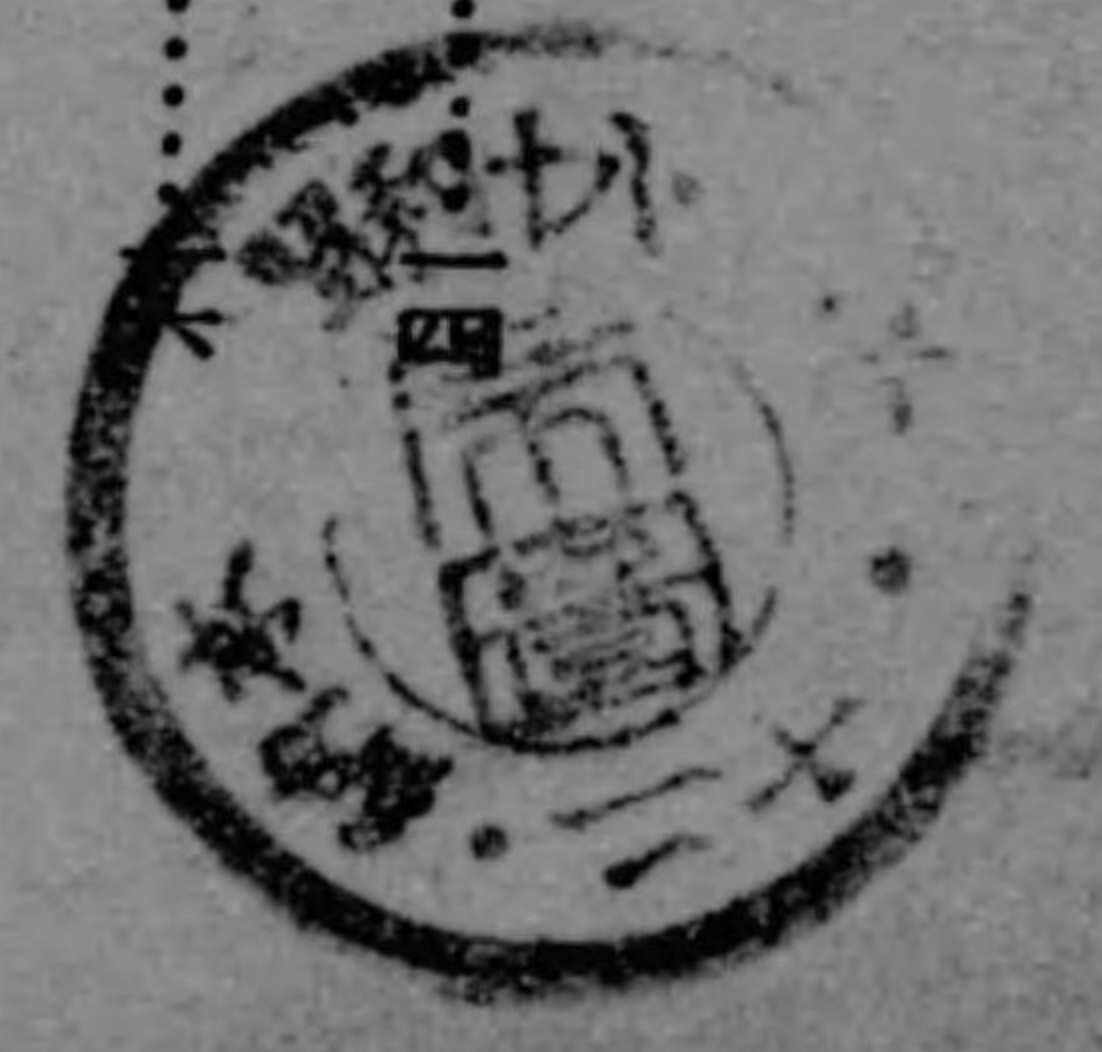
好評増刷出來

## 戦争に勝つ政治

目次

一、長期戦に於ける政治力の要請	三
大東亞長期戦の形體	三
陣券の赤誠を汲み上げよ	五
二、君民一體有機的皇道國家の完成	一〇
明治維新の精神	一〇
責任をとる指導者	二二

行政に先行する政治	………
國民は陛下の直參	………
三、道義的矜持による東亞諸民族の指導	………
前線將兵の本能	………一九
奪掠・搾取・貪慾を破るもの	………二二
四、萬民奉仕經濟體制の確立	………



資本主義經濟の役割……………二九

ナチス經濟の特徴……………三三

國家父性愛の浸透……………三三

形式的統制の缺陷……………三四

外來的法治主義の脱却……………三七

經濟革新基本要綱……………三六

五、大東亞廣域經濟への幕進

英國のインド強奪……………四五

經濟工作の緒戰的任務……………四七

雄渾なる經綸を確立せよ……………五一

六、大戰爭下の國民運動

反動的壓力の強化……………五四

草莽の同志組織……………五六

カイゼルドイツの統制經濟……………六〇

便宜主義と町人根性……………六三

同志の忠實なる任務……………六四

われ等の指導原理……………六七

無聲無臭の體當り……………六九

# 戰爭に勝つ政治

中野正剛

## 一 長期戰に於ける國民政治力の要請

我々は、滿洲事變の勃發より、日支事變の體驗を経て、大東亞戰爭の展開に至るまで、終始日本の歴史的使命を確認し、大東亞建設、米英排撃、樞軸強化の大旗を掲げて、最も果敢なる國民運動に挺身した。固より日本は幕末開國以來の環境により、殆んど一世紀に亘りて英米依存の因縁を馴致せし關係上其の浸潤せる汚染を洗滌して、經濟的に外交的に思想的に本然獨自の國策に乗り出すことは、實に空前の大事業であつた。それ故に唯だ一時を糊塗して、因習的に安易の途を辿らんとする俗人に取りて、我等の主張が實に危険極まる非常識の暴論なりと解せられしは當然のことであ

る。されど自己の行動の眞意義を把握する者にとりて、苦難の途は却て確信を磨くの  
砥石たるに外ならない。我等同志は、幾辛酸を経ると共に操志愈々堅く、専ら大衆に  
訴へて草莽の赤誠を喚び起し、之を君側に上通して、聖斷による大方針の決定を仰が  
んことを切望した。我等の微衷空しからず、皇紀二千六百一年十二月八日、天佑を保  
有せる皇軍の精銳が、太平洋の全面に亘りて其の傳統的電撃を展開し、之と間髪を容  
れずして、宣戦の大詔を拜するに至つた時、我等は眞に生き甲斐あるを覺えて、聖恩  
に感泣した。我等が少年時代より夢寐の間にも忘るゝ能はざりし、亞細亞奪還の理想  
は、今や大日本國家により現實の國策として採用せらるゝに至つたのである。我等は  
今や錦旗を奉じて大東亞の聖戦に邁進するの光榮に浴したのである。日本の國策が右  
するか左するか岐路に立ちし時、我等の國民運動は凄愴の氣を帯びて現状維持勢力  
に對立し、必要ある場合身命を賭して目的の貫徹を期せねばならなかつた。然れども  
今や日本の國是は軌道に乗り、政府は國難を克服せんが爲誠意を傾けて奮勵努力して  
居る。我等は過去に於て國策決定の推進力たりしが如く、今後に於ても國策遂行の推  
進力たらねばならぬ。我等の建設的國民運動は對立的鬭争に代位して、益々重大なる

責務を擔任せねばならぬ。

### 大東亞長期戦の形體

忠勇義烈なる日本陸海空軍の精銳は、緒戦以來僅かに四旬にして、殆んど全太平洋  
を制壓し、西南太平洋の英領、米領、蘭領を攻略し盡さんとして居る。されど英國の  
傳統的強靱性と、米國の誇大妄想的自負心とが相互作用して、容易に樞軸の脚下に膝ま  
づかぬことは、我等の牢記せねばならぬ所である。想ふに新嘉坡陥落の凱歌揚り、比  
律賓、蘭印、英印悉く旭日旗を仰ぐに至る時、敵の大東亞に於ける抗戦力は一應消滅  
するに至るであらう。されど米英は遠隔の地形を利用して、斷じて我に屈服せず、其  
の全資源と、全勞力とを動員して、ユダヤ的、唯物的戰闘態勢を強化し來るであら  
う。之に對して日本は彼等の前進據點たる濠洲と印度とを閑却することは出來ぬ。太  
平洋岸に於ける北米と南米との聯絡を傍觀することは出來ぬ。我は大東亞を占據し、  
其の資源を活用し、其の諸民族を協和しながら、戦争の過程に於て益々自強の策を講  
じ、究極不退轉の決意を以て抜本的英米打倒の長期戦争に従事せねばならぬ。抑々戰

争は完全に敵國の戦闘力及び戦闘意思を撃滅することによつて終結すべきものであつて、交戦中途媾和を思ふが如きは、既に心理的敗北主義に墮せるものである。我にして彼等の死命を制せざる限り、彼等は再建せる武力を以て、我が制壓地域に挑戦し來るを覺悟せねばならぬ。斯の如く觀察する場合、樞軸と米英との間に紙に書いた媾和條約の成立など、殆んど思ひもよらざる所である。敵味方の兩陣營は對立のまゝ徹底的に抗争し、或は武力戦により、或は經濟戦により、或は思想戦により、一方の屈服か衰亡かを見るに至りて、戦争は終熄するものと思はねばならぬ。日本は既に緒戦に於ける勝利の壯快味を満喫したが、最後の決勝までには相當の期間に亘りて陰鬱なる對立を我慢せねばならぬ。由來戦争とは武力による國策遂行行爲である。而して短期決戦々争であればあるほど、武力の價値が他の手段に較べて顯著であり、従つて戦争は陽性的で太く短く力強き特徴を示すが、長期戦争となれば銃後に於ける政治手段が漸く効果を増し、戦争は陰性となり細く長く粘り強き傾向を呈するものである。現に日本の支那に對する、獨逸の英國及び蘇聯に對する戦争は、種々の要因によりて即戦即決を不可能ならしめ、漸くにして頗る陰性なる長期戦争の形相を露呈して居る。日

本の大東亞戦争も亦獨逸の波蘭、佛蘭西、蘇聯に對する電撃と同様、緒戦の一撃に於て短期決戦の猛勢を示して居るが、米英の根本的打倒を目標とする時、其の持久的性格は漸く顯著なるものがある。

### 草莽の赤誠を汲み上げよ

こゝに於てか樞軸列國と米英諸國との政治力はガツチリ四つに組むに至るであらう。然らば我等は有史以來未曾有の大戦争を展開しながら、武力以外の一切の手段にも亦最善を盡して最後の勝利を争はねばならぬ。乃ち日本の國民的政治力を發揮することが、長期總力戦に對する必勝の常道となるのである。國民的政治力は行政に先行し、行政に協力し行政に猷替し、國民精神を涵養し、國民生活を肅正し、民間より湧き出づる草莽の赤誠を捧げて、國家的推進力に奉仕するものである。現に第二次世界戦争の現段階に鑑みるも、敵味方の陣營を通じて、國民組織を有し、國民的政治力を有する國のみが、強靱なる抵抗力、果敢なる攻撃力を發揮し、然らざる國々は烈風の前に散亂する枯葉の如く、隨處に無慘なる最後を遂げつゝあるではないか。前回の歐

六  
洲大戰に於て國民組織を有せず、國民的政治力を有せざるカイゼルの官僚政治は、米英佛の自由主義にさへ叶はなかつた。帝政ロシアの專制政治は長期戦に臨みて、最も持續力乏しき實例を示して崩壊した。大戰の廢墟より起ち上れる獨逸及び伊太利の全體主義は、自由主義を超克すべき一層大衆的なる國民組織を基礎とするものであつて、前回の歐洲大戰に試験済みとなつた強權的官僚主義とは、全く對蹠的範疇に屬するものである。全體主義は自由主義以前のものでなくて、自由主義、共產主義以後の新體制である。我等は新體制を唱へながら、自由主義より後退して官僚政治、專制政治を甘受してはならぬ。一步前進して日本の國體に相應しき全體主義的國民政治力を發揮せねばならぬ。

然らば大東亞戰下の、國民運動指導要綱は如何なるものであるか。我等が夙に掲げたる東方會綱領は今日あるを豫見して決定せるものであつて、これを再檢し、これを暢展すれば、以て今日の國民運動を指導するに足るであらう。乃ちこゝに東方會綱領を列記して、逐次的に其の眞意義を闡明したる。

## 二 君民一體有機的皇道國家の完成

綱領 草莽の赤誠を上通し、憲法の條章に則りて、皇道政治の顯現に挺身す

天は日本に大任を授けんと欲し、先づ大難を下して、其の骨力を試みるものである。我等は一大試煉の下に立つと共に、一大躍進の好機に恵まれて居るのである。非常時は國難の非常時たると共に、國運暢展の非常時である。我等は此の國難を克服し、國運を暢展させる爲に、如何なる身構へをなせばよいか。日本國民に對し非常時克服の大方針を授くるものは、日本歴史である。我等は難局に遭遇する毎に、翻りて教訓を祖宗及び先烈の遺跡に求めねばならぬ。東方會綱領の第一は實に歴史に鑑み、國體に照らして、非常時克服の爲に日本革新政治の基調を確立するものである。神國日本にも時に隆替あるを免かれない。我等は日本歴史を通じて、神武の東征より、大化の改新、建武の中興、明治維新等、赫々たる民族的偉業を仰ぐことが出来るが、此等の劃期的大革新の前夜には、必ず君民の隔絶、派閥の專横、國運の沈滞ありしを見逃し得ないのである。斯の如き衰運を挽回して、民族的に一大躍進を可能ならしめし原



動力は、上御一人と其の周邊に上通せし民間草莽の赤誠とである。日本最後の責任者にまします皇室と、最後の踏張りたる國民大衆とが、真に一體をなす時、日本の國難は常に打開せられ、日本の國運は常に暢展し來つたのである。明治維新は實に國難打開の積極方針を實踐せる最近の適例である。徳川幕府三百年昇平の夢は、浦賀一發の砲聲に破られて、天下は右往左往に混亂した。印度を亡ぼし、支那を威服し、西比利亞を侵略し、蝦夷を覬覦せる外敵は、東西南北より我が邊境を脅やかして、將に日本を呑嚙せんとするの勢を呈した。此時に當りて封建政治崩壞の要因は夙に内部的に成熟し、幕府の財政は窮乏し、綱紀は紊亂し、士氣は頹廢し、上層階級の奢侈、遊惰、破廉耻、無節操、殆んど名狀す可らざるものがあつた。徳川幕府の衰世には嘗に其の武器軍需が諸文明國に劣つたばかりでなく、日本の誇りたる武士的精神に於ても言語同斷のものであつたのである。彼の映畫に現はるゝが如き幕末劍劇の壯烈振りを發揮したのは、日本武士が外患に驚かされて、本然の魂を蘇生せしめた後のことである。見るべし今より一世紀前の非常時に先づ三百年の惰眠より覺めて、國難打開の推進力となりしは、幕府の大官に非ず、諸侯に非ず、武家上層に非ずして、民間草莽の志士

であつたのである。此等草莽の志士とは何であつたか。彼等は幕府體制の重壓下にありて、猶ほ血と土との日本的傳統を堅持し、一片耿々の心、已むに已み難く、身を挺して國難を打開せんとした者である。彼等は外患の切迫せるを痛感するや、先づ藩論を動かし、幕府を激勵して、現状維持體制の下に對外強硬策を實行せんと企てた。然るに彼等は彈壓に抗し、死地を踏み、壯烈なる鬪争を繼續する過程に於て、腐朽せる封建上層の頼む可らざるを體驗し、遂に藩籍を超越して全國的に同志を糾合し、之を天皇に歸一して尊王攘夷を斷行せんとしたのである。彼等は實に境遇首べを廻らすに堪へざるに及びて、立國の根本義に眼醒めたのである。皇室は時の政治體制を信任して時務を擔當せしめらるゝが、爲政者が國民より遊離して上下壅塞の障壁となり、其の特權を濫用して威福を恣にするに及びては、直ちに草莽の赤誠を汲みあげて、君民一體の新政を再建せらるゝのである。皇道は蕩々として偏私あるなきも、幕府が國體の神聖を護る能はず、國家の憂患を芟除する能はず、却つて陛下の赤子を虐げ、陛下の社稷を危うするに及びては、特に之を恩寵せらるゝに由なく、遂に全國土に躍動する天下の正氣を暢展せしめて日本國家を全民衆の基礎の上に安置せられたのである。

草莽の赤誠を上通するは、日本志士の忠節であり、萬民の赤誠を嘉納し給ふは、實に日本皇室の萬々歳に彌榮ゆる所以である。

10

### 明治維新の精神

大東亞戰爭に於ても日本の意思を決定せしものは聖明の英斷と全國民の自覺とである。それは恰かも明治維新の際と同様、民族の傳統的本能が至尊の宏謨に副ひ奉つたのである。而して鳥羽伏見の砲聲が明治維新の黎明を報ぜしが如く、太平洋上緒戦の一撃は大東亞の黎明を告げたのである。此際明治維新の指導原理は、直ちに昭和維新の指導原理となし、之を展開して大東亞維新に適用すべきものである。米英に對する宣戰の大詔は革新日本の方向を決定したが、我等は今や鳥羽伏見の戦を終へたばかりである。明治天皇は寶算纒かに御十六にして大統を繼がせられたが、征東の錦旗未だ江戸に入らざるに先だち、三月十四日五箇條の御誓文と御宸翰とによりて、維新の大精神を明白にせられた。御年少なる陛下が神明に誓ひ、民衆に示されたる御政の大方針は、實に勃興日本の精神を象徴して破竹の勢あり、これを今日の情勢にあてはめ

て、甚だ適切なるものがある。曰く「廣ク會議ヲ起シ萬機公論ニ決スベシ」とか、「官武一途庶民ニ至ルマデ各其志ヲ遂ゲ、人心ヲシテ倦マザラシメンコトヲ要ス」とか、是れ實に民間勤王の志士が「玉のみ聲のかゝる嬉しさ」と詠嘆せる微衷に對して下し給へる聖明の應酬である。陛下は實に人心動搖、海内沸鼎の際に當りて、國民を警戒せずして、これを信賴し給ひ、民意を抑壓せずして、これを暢展せんとし給ひしものである。又明治天皇はその御宸翰に於て「中葉朝政衰ヘテヨリ武家權ヲ專ニシ、表ニハ朝廷ヲ推尊シ實ハ敬シテ是ヲ遠ケ、億兆シ父母トシテ絶エテ赤子ノ情ヲ知ル能ハズ、遂ニ億兆ノ君タルモ唯名ノミニ成リ果テ……」と宣ひて、君民隔絶の弊を悲み給ひ億兆の父母として赤子の下情を上通せしめんことを切望せられて居る。又特權派閥の跋扈を戒め、一君萬民の大義を明白にせんが爲、「今般朝政一新ノ時ニ膺リ、天下億兆一人モ其ノ所ヲ得ザル時ハ皆朕ガ罪ナレバ、今日ノ事、朕自ラ身骨ヲ勞シ、心志ヲ苦メ、艱難ノ先ニ立チ古列祖ノ盡サセ給ヒシ蹤ヲ履ミ」と仰せられ、身を以て民を率ゐ、民をして各々其の能を遂げしめんことを誓はせられて居る。而してこれこそ實に時艱を克服し、國威を宣揚し、萬里の波濤を開拓すべき日本政治の指導精神である。

一一

## 責任をとる指導者

日本の國體に於て皇室は血縁民族の中樞である。併し天皇は征服國家の皇帝の如く嚴法酷罰を以て民衆に號令するのではなく、畏くも天皇自ら心志を苦め、身骨を勞し、聖徳を磨き、艱險を冒し、躬行實踐の人格的模範によりて、民衆を率ゐらるゝのである。獨逸にてヒットラー總統は指導者原理を高調し、指導者の權威は物理的強制力によりて民衆に押しつけらるゝものでなく、その智能的指導力及び道德的犠牲心が、客觀的に認識せらるゝに至りて始めて完成せらるゝものなりと明言して居る。これ故に彼は絶代の天才を抱きながら身を持すること純潔方正である。勤勉であり、無私であり、何人にも勝りて犠牲的である。彼は彼の人格と能力と精神とにより、模範を全國民に示して獨逸民族を指導するのである。彼は模範工場の規程に於て、「工場指導者は凡ての點に於て従業員の模範たるべし。一の模範は百の規則に優る……指導者の權利はその責任なり、責任を回避する時は指導者の地位を失ふ。……規則に基づく權力は強制に等し。協力者が協力を拒む時は指導者はその原因を主として自己に求むべし。」

と述べて居る。是れ實に自由主義、多數主義、唯物主義に對立する權威者政治の基調である。獨逸はこれによりて國內の宿弊を一掃し、歐洲の天地を震撼してユダヤ的舊秩序を打倒せんとして居る。日本のインテリは其の英風を仰ぎて研究模倣唯これ及ばざらんことを恐れて居るが、他山の珍木之を移し植えれば、自家庭前の花に如かず、明治新政の御誓文と御宸翰とは夙に獨逸の指導者原理を最も含蓄ある言葉を以て表明して居らるゝではないか。ヒットラーは敗殘獨逸の卒伍より起り、克己勉勵して指導者の道德的權威を確立せんとして居るが、日本の元首は生れながらの神格を更に練磨して、民衆の師表たるべきを明示せられて居る。

日本超非常時の政治綱領たる五箇條の御誓文と御宸翰とを拜讀すれば、一に民意の暢展であつて、斷じて民意の抑壓ではない。民意の暢展は即ち國民政治力の育成であつて、これなくして國難を打開し、歴史的大業を完成することは、絶対に不可能である。一億一心、舉國一致とは、民意を暢展し、政治力を旺盛にし、國家有機體の全細胞を躍動せしむることであつて、彼の非常時に藉口して行政を以て政治力を抹殺し、社會の活氣を喪失し、民衆をして沈鬱に陥らしむるが如きは、斷じて日本の傳統的指

## 行政に先行する政治

我々は、草莽の赤誠を上通し、憲法の條章に則りて、皇道政治の顯現に挺身するものである。我等は米英打倒の國民運動に先驅し、國策の決定に貢献する所があつた。國策一たび決定して日本の前途には一大光明が與へらるゝと共に、一大責任が課せらるゝに至つた。而して今日に及びても猶ほいやが上に草莽の赤誠を捧ぐることが、此の重任を擔當する所以である。草莽の赤誠を捧ぐるとは、民間の不平不満を増大することゝ、全く正反對の動きであつて、克己精勵、自ら艱難の先に立ち、犠牲の先に立つことである。我等は未曾有の大戦に臨みて無限の國防力を發揮せんが爲に、行政能率の増進を切望し、官吏が迅速果敢に其の執行力を行使せんことを期待するものである。新體制下の官僚は舊體制下の官僚の如く、國策に對して中立性を執るべきものでなく、官僚も亦有機體たる民族同志國家の一分子として、國民的理想に邁進すべきものである。然れども官吏は行政權を通じ決定せる國策を施行するものであつて、一

代の人心を鼓舞し、國民的雰圍氣を支配して、根本國策の動向を決定するは、行政に先行する政治の任務である。而して其の政治力を民間に育成することが、國民運動の目標である。東方會は實に國民の政治力育成を任務とする同志組織の政事結社である。國民が若し職域奉公の意義を曲解し、徒らに行政の支配下に屏息して、廣義の國事を没却し、唯命令に従ひて勞役し、刑罰を恐れて萎縮するが如くんば、是れ實に奴隸體制に墮落するものであつて、斯くの如き官僚國家は既に第一次歐洲大戰に於て、盡く崩壊衰亡の悲劇を演出して居る。一目整然たる官僚機構を物理的に組み合せ、専ら行政の便易を旨として、國民の自然發生的愛國心を封殺せる國家群が、如何に敗戦思想、ユダヤ思想の侵略に對して脆弱無力なりしかは、實に國民的政治力の重要性を立證する史上の事實である。官僚機構はメカニズムであり、物理的排列である。之に血をかよはせ、熱を與ふるは革新官僚の任務であるが、更に其の血と熱との根源を涵養するものは、官僚をも包含する全國民政治力である。我等は此の國民的政治力を暢展して、大政に翼賛し、行政に協力し、見えざる危険思想を封殺し、現はれたる生産力を倍加し、以て物心一如の高度國防國家を完成し、以て一億一心の皇道政治を顯現

せんとするものである。

### 國民は陛下の直參

日本皇道國家の指導原理は、崇高であり、幽幻であり、之を解説するに井底の見を立て、一流派をなすが如きは、動もすれば僭越の譏りを免かれない。東方會は専ら大和魂の傳統的本能を喚び起し、純一無雜なる實踐行動によりて、指導原理を大地に血書せんとするものである。明治維新の精神は、大東亞維新の精神として延用せらるべく、其の指導原理は明治天皇の獨創に非ずして、崇高幽幻なる祖宗の皇道を非常時に即して最も簡明に要約せられたものである。明治天皇は御誓文の根本精神を更に欽定憲法によりて擴充せられたが、其の憲法發布の告文には「此レ皆 皇祖 皇宗ノ後裔ニ貽シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラズ」と仰せられ、又詔勅を下して「朕ガ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕ガ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ」と仰せられて居る。我等は此等の聖旨を味ふ時、遠く祖宗を念ひ、先烈を念ひ、遙に遡りて神武の東征を念ひ、東征に苦戦したる戰場生き残りの武夫等が、檀原の大典に列し

て八紘一字の詔勅を仰ぎし光景を念ひ、日本が血族國家にして又同志國家たる由來を痛感せざるを得ぬ。日本に於て天皇の權威は父性愛を伴ふものである。日本の政治機構は共に共に身命を賭して鬭争せし同志組織の延長である。陛下の官吏は民衆に對する時、其の民衆が陛下の惠撫慈養し給ふ所の赤子なるを念ひ、苟且にも征服國家の官僚の如き特權威と獨善感とを恣にしてはならぬ。我等は一億民衆悉くが陛下の直參にして、陛下の大政に翼賛し、陛下の國家を擔任すべき重大責任あるを自覺せねばならぬ。是れ實に皇道國家原理に忠實なる所以である。我等は憲法の條章に則り、常に草莽の赤誠を上通し、そこに君民の隔絶なく、そこに特權階級の專恣なく、一人の所を得ざる者なく、一人の顧られざる者なく、君は頭首たり、臣は股肱たり、君民一體の有機的皇道國家を顯現せねばならぬ。而してこれこそ非常時國防國家を完成して時艱を克服する所以である。

### 三、道義的矜持による東亞諸民族の指導

綱領 純正日本精神を高揚し、大東亞を振起して正義を世界に宣布す

日本國家の指導原理は純正日本精神に出發する。それは血と土との傳統を堅持して、如何なる時勢の影響下にあるも、決して其の脈々たる生命力を喪失せざるものである。然らば其の民族精神の本質は何であるか。水戸學の秦斗藤田東湖は之に對し具體的解釋を下すを避けて、其の表現せられたる姿を捉へて本質を説明せんと試みて居る。彼は「天地正大の氣、粹然として神州に鍾る」と言ひ、富岳の雪、大瀛の水、萬朶の櫻、百鍊の鐵、是れ實に日本精神の發露なりと斷じ、其の臣僚は皆忠誠にして、其の武夫は盡く勇武なりとたゞへ、環境と民族、血と土の優秀なるを説き、更に「神州たれか君臨す、萬古天皇を仰ぐ」と詠じて、彼のプラトールが言へりし如く、「國家と共に起り、血統的にその國家と共に窮りなき王者こそ、人類最高の理想的王者なり」と誇りを高調して居る。これ實に旭にほふ山櫻花と歌ひて、敷島の大和心を説明したる本居宣長と調を同じくして、更に其の趣旨を敷衍したものである。我等は斯道の權威者たる藤田東湖と本居宣長との言辭により、日本精神を髣髴に望みて憧憬の念を禁じ得ざるものである。但し藤田東湖も、「世に汚隆なきに非ず、正氣時に光を放つ」と稱し、時世によりて日本精神の蔽はるゝ所あるを嘆じて居る。乃ち妖雲を一掃して

その純正の姿を顯現することが先覺志士の任務である。純正日本精神は安逸遊惰の生活に於て其の姿を潜め、精進力行の環境に於て其の光を發するものである。我等は東湖、宣長の脚底をも嘗むる能はざる怪しき國體の説教者に聽くよりも、萬葉集を、正氣歌を、維新志士の詩文を吟誦しながら、我等が身體の最深部に潜む純正日本精神を喚び起せばよいのである。

### 前線將兵の本能

明治以來の環境に餘義なくされたる米英依存政策は、遂に日本精神を歪曲して、米英依存文化の汚染を被らしむるに至つて居つた。日本社會は最近に至るまで、如何に米英的なる、唯物的なる、ユダヤ的なる物の考へ方に禍せられて居たことか。然るに日本の米英依存理念は、國際情勢の變化により、理論の變更を俟たずして現實の上に破綻を生じたのである。日本上層が國際聯盟の範疇内に於て米英禮讚の讚美歌を歌ひし眞最中に滿洲事變は勃發した。滿洲事變は米英の重壓下に、日本の生命線をさへ犠牲にせんとせし日本上層政治に對する大和魂の反撥であつた。柳條溝の傍らに銃剣を

携へて鐵道守備に任ぜる日本青年兵士の本能が時に臨みて正氣を發し、卒伍の間に躍動する前線精神は、こゝに凝結して滿洲建國となつたのである。忽ちにして國際聯盟の脱退、忽ちにして軍縮條約の廢止、又忽ちにして九箇國條約の本質的破棄等々、皆な是れ草莽の間に鬱結せし純正日本精神の眼醒めに促されたものであつて、日本の上層政治は唯徒らに米英への離愁を漂はしながら一步一步情勢の變化に引き摺られしに過ぎなかつた。次で日支事變の勃發は支那の日本に對する反擊に非ずして、滿洲に敗退したる米英が支那民衆を驅り立て、彼等一流の督戰隊戰術を展開したものである。日本は已むを得ずして東亞の内亂に對應したが、日本を汚毒せる米英依存心理は、支那の背後に策動する眞實の敵に對して、容易に一撃を加ふるを許さなかつた。彼等は米英の前線たる支那と戦ひながら、米英を憚ること恰も虎頸を撫するを恐るゝが如く、政府の聲明、爲政家の言論、殆んど米英の敵性に眼を掩ふが如き爲態であつた。然るに五箇年に亘る征戰の過程に於て、支那が日本の敵に非ずして、米英が大東亞の公敵たることは、漸く國民的常識として確認せらるゝに至つた。日本國民は單なる支那に對する長期戰には、漸く倦怠の色を呈したが、米英に對する敵愾心は抑へん

と欲して能はざる爆發性を示すに至つた。見るべし純正日本精神は米英依存の舊體制下にありて、本能的靈感を堅持し、時に臨みて烈々の光を放つものである。斯くの如くにして日本の國論は歸一し、宣戰の詔勅は渙發し、日本の國策は決定したのである。眞珠灣頭に魚雷を抱き敵艦に迫りし少年航空兵は、其の端的なる行動によりて、大東亞指導原理を世界に宣揚したのである。

### 奪掠・搾取・貪慾を破るもの

米英が大東亞を侵略し來れる時、大東亞諸民族は殆んど手ごたへある抵抗すらなし得なかつた。侵略英國の史家は自ら叙述して曰く、大印度の屈せし所、大支那の屈せし所、小日本は斷乎として抵抗した。然り小弱を以て強大なるものに對し、決然としてプロテストした。此の小國の前途必ずや測り知る可らざるものが有るであらうと。歐米の漫遊家はまた其の經驗を叙述して曰く、新嘉坡に、香港に、上海に、歐米人は人力車に坐しながら、屢々ステッキを振ひて、俥夫を毆打するを憚らない。然るに彼等は唯恐れ戰きて敢て抵抗すらし得ない。然るに長崎、横濱に上陸したる歐米人

は、全く新なる経験に驚かざるゝであらう。日本の俤夫は外觀に於て見すばらしく、其の體軀に於て、寧ろ他の土人より劣つて居る。然れども彼等は猛然として外人の暴行に抵抗し、或は乘客諸共に車を轉覆して、車體の壞るゝをすら意としない。彼等は生活の手段たる車よりも、一層尊重すべき人間の誇りを有するのである。然り純正日本精神は、如何なる境遇に置かるゝも、生活よりも、生命よりも、遙かに尊重すべき人間の誇りを、本能的に保有するものである。而してこれこそ體當り戦法の精神的基礎であつて、此の力は眞珠灣にマレイ沖に奇蹟を續出して、米英を震駭するに至つたのである。

外人の眼よりすれば、日本民族の血が勝れて居るのか、日本の國土風物が優つて居るのか。不可思議にも日本民族は日出づる所に國家を建設して、世界獨得の國體を維持し、嘗て外敵の覬覦を許さず、さしもの米英侵略の波濤を凌ぎ、今や彼等を大東亞より驅逐すべき大使命を擔任するに至つて居る。然り日本は客觀的に觀察するも、大東亞を奪還し、大東亞諸民族を協和して、廣域經濟圏を建設すべき境遇に置かれ、日本の優秀性は此の大業を成就するに足るを示して居るのである。此時に當りて大東

亞を回顧すれば、其の國土は廣大にして水陸の利便を兼ね、其の資源は豊富にして、未開の寶庫たる實を備へて居るが、之に居住する諸民族は、久しく征服國家の重壓によりて文化の發達を妨げられ、其の國土資源は米英搾取の對象となりて、甚だ偏倚なる開發に歪められて居る。日本は此の實狀に即して、共榮圏内の新秩序を建設せねばならぬ。米英は優越感を以て異民族に君臨しながら、偽善を以て其の獸心を飾り、奪掠と搾取とを以て飽くなき貪慾を逞しうした。我等は米英を驅逐して彼等に代るものでなく、全く異なる指導精神を發揮せんとするものである。

イ、日本人は人種的偏見に基く優越感を以て、大東亞諸民族に君臨せんとするものでない。日本民族の誇りを堅持しながら、彼等を指導開發せんとするものである。

米英人は利害の打算に隨ひて現地人を愛撫することがある。然れども彼等の所謂愛撫は搾取の對象たる重要物資に對する愛惜である。故に生殺與奪一切彼等の打算と感情とによるものである。若し彼等の意に逆らはんか、忽ち牛馬に對するが如き懲戒を



加へて容赦する所がない。佛印に於ては佛蘭西の賣笑婦に至るまで、安南人を足蹴にして憚らない。併も彼等の暴力は絶対に現地人を憎伏せしめ、現地人も亦歐米人を天上の權威者の如く仰ぎて、其の抗し難きを諦らめて居る。然るに若し日本人にして佛人の如き態度を以て安南人に臨まんか、忽ち彼等の激怒と反抗とを招くであらう。これ彼等が日本人に對し、同じ仲間なりとの心易さを感じずる結果である。然るに今や日本人は目のあたり米英人を驅逐して、隨所に赫々たる戦勝を見せつけた日本人は天上の暴君を脚下に踏みにじつたのである。こゝに於て彼等は始めて日本の優越性を確認し、畏敬の念と共に親愛の情を捧げんとする傾向を示して居る。彼等が日本人に對して感じ始めたる畏敬の念は人種的差別感でなくして眞價實力に對する客觀的認識に基づくものである。我等は彼等の態度に對應して人種的優越感を捨てやう、而して日本民族の矜持を高くし、眞の優秀者のみが有する寛大の量と親愛の情とを示さうでないか。我等が現地人に對して高揚すべきものは人種的優越感でなくて、道義的矜持である。隨て我等は米英人の如く特權的に君臨支配せんとするものでなく、友情と權威とによりて、本質的に指導誘掖せんとするものである。我等は仰で天に吐かず、臥して

人を欺かざるの至誠を以て、現地人に臨むべきである。葡萄牙、西班牙、和蘭、佛蘭西に代りて、世界に植民地を獲得し、廣く異民族を支配せるものは英國である。彼等は前者の成敗に鑑み、所謂植民政策に關して老巧なる手段を取り、之に關して幾多の名著をすら出して居る。されど其の何れを見るも唯劣等人を取扱ふ爲の巧妙なる手段を講ずるのみであつて、其の心術に於て人間に對する衷心の愛情を缺くものである。隨て彼等の方針は支配であり、利用であり、搾取であり、其の愛撫は彼等の採算に基づく動物に對する調教手段である。我等は英國人の著述にかゝる植民政策の詐術に誤らるゝことなく、其の言を忠信にし、其の行を篤敬にし、日本精神の眞髓を實踐すべきである。

ロ、日本は米英的偽善を排し、現實に即して率直なる態度を表明し、東亞諸民族を協和すべきものである。

米英的偽善の最も顯著なる表現は、彼等の國際聯盟理論である。正義人道論と平等觀とを以て弱小民族を欺き、金融支配と經濟搾取とを恒久化せんとせしは、基督教的

偽善とユダヤ的打算との所産である。我等の現地諸民族に對する態度は、偽善的甘言を以て粉飾すべきでない。我等は人種的偏見を排するが、日本の傳統的矜持は斷じて之を喪失してはならぬ。隨て我等は彼等と同列に下りて聯盟を主張するものでなく、眞價實力に對する客觀的信頼に基きて、指導的に諸民族を協和すべきものである。萬邦協和と稱する言葉が頻りに我國に於て用ひられて居るが、それは嚴密に論ずれば國際聯盟と同様自由主義的表現に外ならない。萬邦協和とは堯典にある「百姓昭明、協和萬邦」を歪曲して引用せるものであつて、本來の意義は帝德を明らかにし、九族を親和せしめ、以て百姓の風俗を正しくし、諸侯の萬邦を協和合せしめると云ふことである。萬邦協和は平等觀に出發して居るが「協和萬邦」は萬邦を協和すと訓じ、それには權威者の意力が働いて居る。日本は眞價實力による權威を以て大東亞諸民族を協和すべきものであつて、御互の持ち寄りで聯盟の協力を求めんとするものでない。大東亞諸民族を通觀すれば、最近まで米英の重壓下にありて自ら護るべき武力なく、自ら支ふべき財政の獨立なく、衛生設備すら施す能はざるものが大多數である。甚しきは最近に至るまで思想的にも文化的にも經濟的にも、米英依存の惡習に汚染し、露骨に

日本に對して敵意を表して居たのである。乃ち我等の彼等に施すべきは權威的誘導であつて、妥協的野合であつてはならぬ。隨つて日本の大東亞政策は同化政策でなくて指導政策であらねばならぬ。指導の結果、互に人間の眞善美を窮めて融合同化するに至らばそれこそ理想的好結果と稱すべきであらう。異なる段階にある諸民族を強ひて遽かに同化せんとせば、彼等は却つて苦痛に勝へないであらう。それは我に取りて自瀆であり、彼に取りて自滅である。況んや同化政策を取りながら自ら彼等に同化するが如きは、純正日本精神の衰亡を招く所以である。我等は富岳の雪、萬朶の櫻、百鍊の鐵に象徴せられたる純正日本精神を高揚し、大東亞諸民族を指導して、彼等を覺醒し、彼等を振起し、日本の指導力と包容力とを如實に立證して、正義を世界に宣布せねばならぬ。

日本政府は既に日本的信念に基きて、大東亞經綸の大綱を闡明して居る。曰く、香港、馬來は之を把握して軍事據點とする、比島、ビルマには獨立を考慮する、蘭印、濠洲が敵性を改めずば、容赦なく擊碎すると。我等は其の言の率直にして偽善的ならず、遙かに聯盟意識を超克せるに快感を覺ゆるものである。而してこれこそ大東亞指

導民族の矜持と襟度とを表明せるものである。我等は大東亞の解放戦に勝たねばならぬ。勝つ爲めに重要據點を占有し、重要軍需資源を獲得開發せねばならぬ。而して我等は大東亞の艱難の先に立ちて敵國を撃攘し、同志諸民族を覺醒振起せねばならぬ。我等は彼のビルマ兵、印度兵を犠牲の最前線に驅り立て、自ら督戦隊として背後に安きを偷む米英と正反對の態度を執るものである。我等は印度をもビルマをも比律賓をも解放し、その人心を振起躍動せしめて大東亞建設に邁進せねばならぬ。我等の任務は指導して振起することであつて、壓迫し萎縮せしむることであつてはならぬ。

#### 四、萬民奉仕經濟體制の確立

綱領 萬民奉仕經濟體制を整備し、全國民に對して勤勞と犠牲とを要求し、名譽と生活とを約束す。

一君萬民の國體精神は觀念論に墮して、現實の生活秩序から遊離してはならぬ。東方會は唯心と唯物との一元化を理想とするが故に、徒らに國體精神を神學的に解説して、郷愁を天空に寄するものでない。寧ろ直ちに之を地上に適用して、經濟體制の中

に具現せんとするものである。萬民奉仕經濟體制と稱する以上、經濟はそれ自身の爲の經濟に非ずして、奉仕經濟であらねばならぬ。而して君民一體の國家こそは奉仕の對象であらねばならぬ。然るに國家意思を決定遂行するものは政治である。それ故に政治の要請に應ずることが國家に奉仕する所以であり、政治は經濟を支配して國家に奉仕せねばならぬ。こゝに於て天皇を奉戴する日本國家は、全國民に對して勤勞と犠牲とを要求し、名譽と生活とを約束せねばならぬ。かくて萬民の經濟生活は政治の指導によりて、天皇に、國家に、奉仕することとなるのである。

#### 資本主義經濟の役割

萬民奉仕經濟の概念は政治の經濟に對する優越と其の指導權とを確認するものである。政治は經濟の自然法則による運営に對し國家意思に基づく指導を介入せしめ、萬民の生活及び生存の保證人として、其の權威を確立すべきものである。資本主義經濟は思想的に自由主義を基礎とするものである。自由主義は個人の自由を神聖視し、經濟に於ても勤勞と就役の自由を主張し、これによつて生活と生存の自由を享受し得べ

しと断定した。而して此の斷案は資本主義上向過程に於て眞理であつた。乃ち企業と勤勞と就役との自由は硬化せる中世紀的特權制度を打破し、各人は自己の意思と責任とに於て、企業し勤勞し収益することが出来ることとなつた。此の企業と勤勞と就役との解放こそは、人間獨創力の解放であり、責任感の確立であり、經濟社會は之が爲に活氣を呈し、爛漫たる資本主義の花は、此の基礎の上に咲き匂ふたのである。然るに自由主義は各人に對して、其の勤勞を選択し、之に就役するの自由を與へただけで、現實に此の勤勞と就役との可能を保證しなかつた。随つて資本主義が發達し、大資本が結集せられ、獨占資本の形態を取るに至つて、彼等の自由主義は一般社會の不自由主義となり、企業の自由は事實に於て存在の餘地なく、獨占資本家は消費大衆と勤勞大衆とを犠牲にして、彼等のみに自由なる特權的収益を逞しうするに至つた。こゝに於てか生産と消費との均衡は破れ、製品は市場に堆積しながら、窮乏は社會に彌蔓し、企業は屏息し、失業は續出し、そこに勤勞と就役との可能を如何にして保證すべきかは、再び重大なる社會問題として擡頭するに至つたのである。畢竟、經濟上の自由主義は、中世紀的特權主義を打破することには成功したが、一たび其の役割を果し

て後、漸くそれ自身の重力によりて沈澱し、遂に人間社會の獨創性を窒息せしむるに及びて、そこに之を矯正すべき政治の必要を生じたのである。

### ナチス經濟の特徴

自由主義の行き詰りを打開すべき政治手段として示されたる顯著なる實例は、ソ聯の共產主義と獨逸の全體主義とである。ソ聯にては全生産機構を全部的に國有化し、國家は總ての國民に對して勞働と勞働の成果とを割り當てる政策を採用した。然るにナチス獨逸は之と異なる政策により全國皆勞組織を計畫した。一九三三年ナチスが政權を把握せし際、獨逸は六百萬の大失業群を有し、政府は之に對して就役の機會を與ふべき焦眉の急に迫られて居た。ナチス首腦者は斯の如き場合、生産を國有化し、官僚の手によりて其の社會的成果を分配するが如きは、畢竟個々人の自由より生ずる優越なる獨創力を封殺するものなりと信じたのである。是に於て彼等は全産業機構の國有化、全經濟生活の特權化を排撃し、個人の獨創を撫育し、個性の發揮を助成し、其の有機的組み合せによりて國民共同體を強化する方法を設定した。彼等は自由主義

下に於て放任せられたる勤勞と就役との自由を、國家の責任を以て保證するの制度を確立した。即ちナチス獨逸は勤勞を欲し、就役に耐ふる總ての國民に對し、勤勞を附與し、職場を造出するの義務を國家に向つて賦課したのである。こゝに於てか獨逸國民は國家に對し、勤勞を要求し、其の就役によりて生活を確保するの自由を獲得した。かくて彼等は資本に支配せられずして、政治に支配せられ、各人の獨創と努力とを發揮しながら、國家に奉仕するを得るに至つたのである。

### 國家父性愛の浸透

我等の萬民奉仕經濟理念は八紘一字を理想とする家族主義の延長である。八紘一字とは漢字を以て日本の古代精神を表現したものであるが、蓋し普天の下、率土の濱を合せて一家となすの意味であらう。然らば我等の國家經濟は父母の愛の子弟の奉仕と同胞の親しみとによりて運営せらるゝ一大家族經濟でなければならぬ。此の大家族の全成員は、各々勤勞を捧げ、犠牲に甘んじ、孝養にも勝れる純情を傾けて、先づ家運の隆盛を期せねばならぬ。之に對し父性愛は、全家族を潤ほし、其の子弟をして家族

の傳統的名譽を享受せしめねばならぬ。義は君臣にして情は父子とあるは、大家族國家に於ける父性愛を表現せるものであり、東方會が全國民に對して勤勞と犠牲とを要求し、名譽と生活とを約束すと聲明せしは、此の大家族を規正する家憲に忠實ならんことを宣誓せしものである。かくて大家族の隆盛と繁榮とは、家門の名譽であり、子弟の幸福であり、家長の誇りであり、家族の歡喜であり、公益は私益に先行するのみならず、渾然たる公私一體の境地に味到すべきものである。父性愛は子弟を育成するが、其の天賦の才能を拘束するものでない。萬民奉仕經濟體制は國民を撫育するに父性愛を以てし、國民各個の獨創を尊重すること、父母が愛兒の自主的發展を待望するが如くあらねばならぬ。八紘を掩ふて宇となす大家族體制は他の征服國家の如き奴隸體制であり搾取體制であつてはならぬ。それは撫育體制であり、奉仕體制であり、其の撫育は啓發的であり、其の奉仕は獨創的であらねばならぬ。

萬民奉仕體制は國民に對して無限の國家父性愛を浸透せしむるものである。國家は國民に對し生活を約束するのみならず、生活手段を保證するものである。我等は全國民に對して勤勞を要求するが、國家は國民に對して勤勞の機會を供與し、救済によら

ざる名譽ある生活を約束せねばならぬ。國家は經濟の自然方則より生ずる社會的矛盾を傍觀し、随つて失業者を出せば、随つてこれを救濟し、多數の同胞をして寄食者たるの屈辱を甘受せしむるものでない。國家は自ら進んで生活の保證たる就役の機會を附與し、其の機會を供給せんが爲、勤勞の職場を造出すべきものである。國家が國家の任務を正當に理解し、經濟に對して權威ある指導を加へんか、そこに一人の失業者なく、一人の餓うるものなく、そこに國家民人の福祉を増進すべき無限の企業あり、無數の職場あり、奉仕に對して生活を保證し、犠牲に對して名譽を約束し、國運は興隆し、民心は躍動し、文化は燦然として光を放つに至らねばならぬ。

### 形式統制の缺陷

萬民奉仕經濟は大家族主義に立脚するものなるが故に、物理的劃一主義を信條とするソ聯の集産主義とは全然其の趣きを異にし、ナチスの有機的全體主義を潤滑すに日本の傳統的敬愛の念を以てするものである。個と全とを在るべき所に置き、創意と拘束とを組み合わせ、之を温むるに情を以てし、之を撫するに愛を以てし、之に奉ずる

に敬を以てするものである。經濟理論に於けるマルクス主義の多くの誤謬は、何れもが經濟に於ける精神的原動力を全然無視せる點にある。唯物主義は文字通りに、物を唯一の要素として經濟を解釋するが故に、物理的に機構を組み立て、人間生活を規正せんとし、其の機構の拘束が人間の精神作用を窒息せしむるに想ひ到らないのである。我等の觀る所によれば經濟組織は有機體である。萬民奉仕經濟體制は國民を要素とする活きた日本精神の有機組織である。經濟に於て精神的要素を没却すれば、期せずしてメカニズムに墮し、唯物主義に陥り、官僚的強制力の物理的行使を以て能事畢れりとなすに至るのである。日本政府は絶対に共產主義を痛撃し、日本國民は常に所謂官僚主義を嫌惡して居るが、其の痛撃せられ嫌惡せらるゝものの本體は、人間的ならざる唯物的理念と物理的強制とに外ならない。ナチス理論家は唯物主義を以て經濟上の霸道なりと稱して居るが、外來的官僚主義なるものは、征服國家の君主が被征服民族に對して施したる霸道に端を發するものである。征服國家の君主は被征服民族の忠誠を信じない。故に其の威容を峻烈にし、其の法制を嚴密にし、其の刑罰を殘酷にし、肅然として天下の秩序を規さんとするものである。所謂外來的官僚機構は斯の如

き支配者の要請に基きて發達し、自づから霸道的要素を多分に含むものである。支那に於ても霸道は夷狄より出で、中華を征服したる支配者の常套手段である。其の顯著なる適例は虎狼の國と稱せられし秦朝であり、商鞅は霸道的官僚政治の創設者である。彼は人民を信ぜざるが故に荐りに法を設けてこれを拘束した。彼は又法を提げて民に臨むべき官僚を信ぜざるが故に、其の服務令、分限令、任用令、進級令等々を精密にして之を規正した。其の甚しきに至りて、人民は行住坐臥、法の拘束を受けて嚴法酷罰に怯え、官僚は自ら其の責任を法に轉嫁せんが爲、益々煩雜なる法律を要請し、遂に自ら法の重壓に勝へずして硬化し萎縮するに至つた。商鞅は他日失脚して世間を流浪し、到る所に宿泊を拒まれ、始めて「商鞅の法」なるものが旅客を惱ますの甚しきを覺つた。又蘇東坡は秦朝が所謂商鞅の法によりて、餘りにも甚しき恐怖政治を演出せしを揶揄し、「荆軻の變、兵を持する者、始皇の柱を環つて走るを熟視して、之を救ふなきは、秦の法重きを以ての故なり」と論じて居る。これは服務規則が餘りにも峻嚴にして、親衛兵の行動を拘束したのを嗤つたのである。孔子は斯の如き霸道を排撃して、「之を道びくに政を以てし、之を齊しくするに刑を以てすれば、民免かれ

て耻づるなし、之を道びくに徳を以てし、之を齊しくするに禮を以てすれば、耻づるありて且つ格す」と述べ、刑名法術に偏する法治國家の弊害を數へて、道教禮節を旨とする道義國家の理想を提唱して居る。

### 外來的法治主義の脱却

今日の日本に於て官僚獨善を怨嗟するは國民一般の聲であり、自覺ある官僚も亦之に唱和して居る。斯の如きは實に我國が外來的法治主義より脱却して、純正日本的なる道義國家を完成せんとする過渡的現象ではないか。霸道は夷狄の道であり、流れて刑名法術となり、硬化して法治萬能主義となり、無情冷血なる官僚政治に墮するものである。之に反して皇道は血縁同族の道であり、恩愛と忠誠とを以て上下を繋ぎ、君民一體有機的道義國家の完成に到達するものである。之を逆説すれば、經濟上の官僚主義は法制を煩にして、専ら機構の整備を圖り、精神を喪失し、獨創を封殺し、遂に霸道に陥りて、機械主義、唯物主義に流るゝの禍根を包藏するものである。これを戰時に悪用すれば指導統制上の精神的一元化を失念して、物理的強制統合の一元化に墮

し、企業の個性を没却し、經營の傳統を蹂躪し、産業の士氣を沮喪し、生産力を減退し、所謂國策會社の失態を暴露するに至るのである。畢竟霸道は人間性の善美を信ぜざるが故に、それが經濟上の強權支配となり、物理的強制となり、國民の獨創を滅却するに至るは、理の當然である。自由主義は勤勞と就役の現實的可能を保證する能はずして破綻に陥つた。然るに官僚的強權主義は支配者の便宜に即して、逐次に支配權を法制化し、遂に統制せずして經營するに及びて、唯物的集産主義と同病に陥るものである。自分は嘗て大政翼賛會の常任總務會に、左の經濟革新基本要綱を提出したが、それは自由主義と左翼全體主義とを排撃し、萬民奉仕經濟の完成を力説したものに外ならない。茲に皇道全體主義と稱するは、萬民奉仕經濟理念を表現するものである。

### 經濟革新基本要綱

一、新體制下の經濟革新は、高度國防國家の建設を目標とし、即刻飛躍的大増産を實現すると共に、之と並行して適切なる失業對策を實施し、全國民に最低生活の可能

を保證することを第一義とす。嚴密なる科學的検討と眞劍なる責任感とを伴はざる空疎淺薄なる觀念論を弄して發展の正道を逸脱し、動もすれば皇道全體主義を偽裝せる左翼全體主義の進出を看過し、却つて生産の停頓と經濟の混亂と失業の續出とを誘致するが如き、絶対に之を嚴戒せざるべからず。

二、右の目標に即して、政府は直ちに明確なる皇道全體主義經濟指導方針を宣言し、政府諸機關内に自由主義又は左翼的雜音の發生を防止し、以て財界の不安を免除し、有能熱烈なる建設行動を開始せしむべし。但し自由主義時代の迷夢より醒めざる一部の財界人が、故意に革新政策に關する無根の恐怖説を宣傳し、以て自己保存の煙幕を張り、以て利己的怠業の口實となすが如きは嚴重に之を警戒すべし。

三、皇道全體主義經濟指導原理は、機械主義的一元化工作と異り、精神的更生飛躍を内容として民間設備の國策的運營を目標とす。政府及び大政翼賛會は革新政策推進のモーターとなり、之にベルトを掛けて民間産業施設に聯繫し、以て經濟機構の全面に互りて有機的活動を促進すべし。即ち大政翼賛會は民間經濟人をして、ユダヤ資本的營利主義を清算し、職域奉公の大精神に徹底せしめ、所謂公益優先の原理に基き



て、國難打開に熱烈なる協力をなさしむるが如く、鞭撻指導、推進するを任務とすべし。

四、新體制に便乗して、擡頭せんとする唯物的、機械的なる社會主義イデオロギイは斷乎として之を排撃すべし。増産及合理化に必要な機構の改組は固より積極的に推進すべきも、審らかに民間諸機構の現實的活用を考慮せず、一律的に民有國營を稱し、國策會社への一元大合同を叫び、形式的唯物的強權支配の進出にのみ没頭するが如きは、非常時日本の生産力を全面的に萎縮せしめ、失業者を路傍に放出する所以にして、小兒的左翼理論の現實暴露に外ならず、斷乎として之を排撃すべし。

五、民間既存會社、殊に有力産業コンツエルンは、その獨占資本的營利精神を清算せしめ、彼等を鼓舞指導鞭撻して、國策奉仕的に總動員し、以て彼等の培養し來れる經營力を建設的國策方針に向つて最大限度に發揮せしむべし。但し、ユダヤ資本的營利觀念を清算し得ざるか、怠惰低能なるものに對しては、勿論飽く迄徹底せる制裁を加ふべし。

六、皇道全體主義經濟の本旨は、民間會社即國策代行機關たる至高の建設的境地を

目標とすべきものなるが故に、所謂官僚經營的國策會社の濫設を許さず。況んや、彼等の特權的に優遇し、民間事業を不當に壓迫するが如き、唯物的官僚革新工作は斷乎として之を排撃す。國家は原則として統制すれども經營すべからず。之を不徹底なりとして國家の名に於て官僚經營を主張するが如きは、全體主義を逸脱して社會主義に墮せるものなり。獨逸の全體主義が如何に國家の生産力を増大し、佛蘭西の人民戰線内閣が如何に官僚國營主義によりて生産力を破壊せしか嚴密に比較反省するを要す。

七、經濟産業の發展は皇道全體主義の下、若干の適正規格の企業を並行せしめ、各自の建設的競争心を刺戟し、切磋琢磨の途を邁進せしむるによりて、これが實現を期すべし。みだりに一業一社主義を觀念的の原則として重要生産部門を強制的に一元合同化せんとするが如き機械主義的工作は、かへつて倒産失業を氾濫せしめ、生産率を減退せしむる禍根たるを認識すべし。

八、社會民主々義的惡平等を排す。經濟の有能なる運営はあくまで卓拔なる指導者の獨裁的統率に期待せざるべからず。企業利潤の統制のごときも固より緊要事なりといへども、機械的に一律平等的制限を強化するときは、かへつて有能企業の發展的精

神を毀損するおそれなしとせず。有能にしてかつ勤勉なる企業には、あくまで相當の報酬をみとめ、その擴充發展を重點的に助成するがごとき弾力性ある刺戟的工作を加味するを要す。獨占的金融利潤はこれを壓縮すべし。企業的勤勞利潤はこれを擁護すべし。これ財界に正義を布き活氣を呈せしむるゆゑなり。たゞし配當を制限し重役手當を制限し、利潤の建設的用途を命令するは、もとより當然の處置なり。

九、主要國防産業の國家管理は、特殊の國營事業をのぞき、原則として經濟團體を通じてこれを實踐するものとす。このために民間經濟團體を根本的に改造強化し、政府と緊密に協力して切實效果的なる國策代行の經制的才能を發揮せしむべし。經濟計畫の樹立およびその實踐方式等の決定には經濟團體の代表者を參加せしめ、もつて、官僚獨善化を防止し、民間經濟人に旺盛なる責任觀と奉公意識を喚起せしむべし。經濟團體はあくまで峻嚴なる統制によりて、精銳、俊敏なる運營を企圖し、生産、配給及消費の全面にわたりて、國策的合理化を強力に推進せざるべからず。とくに生産合理化のため指導者には絶對的なる推進的權限を附與すべし。

此の提案は期せずして特權階層間の物議を惹起し、自分等が大政翼賛會を去る主要

なる一原因となつたが、今日に於て此種の理念が滿天下の承認する所となり、當局者の口吻も亦漸く之に近づくに至りしは、窃かに余の會心に勝へざる所である。

### 五、大東亞廣域經濟への驀進

日本は今や西南太平洋を制壓して、豊富なる資源を掌握し、大東亞を掩有する廣域經濟圏を支配すべき立場を獲得した。日本國民は其の勤勞の力を、此の廣大地域に適用して、活潑なる建設作業に取りかゝらねばならぬ。大日本は大々日本となり、持たざる國は持てる國となり、日本國民が雄健なる麒足を延ばすべき天地は、豁然として我等が眼前に展開した。然らば我等は從來より一層日本國民の獨創的才能を啓發し、活潑撥地の大經綸を急がねばならぬ。併も斯の如き重大任務は、國運を賭せる世界未曾有の戰爭繼續中に課せられたのである。課題は火事場にての課題である。官も民もなく、獨善も派閥もなく、國民總掛りにて、各々其の最高能率を發揮せねばならぬ。茲に牢記すべきは、我等は單に廣域經濟建設の妨害者に一撃を加へたゞけで、其の建設工作に至りては、纔かに其の可能が保證せられたに過ぎない點である。政府當局者

も足元を踏みしめて完勝第一主義を高調し、經濟建設に就ても、取りあへず戦力擴充、米英制壓を主眼とすべきを闡明して居る。日本は先づ石油、ゴム、錫、鐵礦、非鐵金屬、農産物等を、我が戦力培養の爲に取得し、同時に此等重要物資が敵性國家へ流出することを防止せねばならぬ。日本は此等の物資を取得し、又は資源を開發するに軍票を用ふるであらう。軍票は戦勝日本の信用によつて適用するであらうが、其の軍票を取得したる民衆は之を以て彼等の必需品を買はねばならぬ。南方熱帯地域に於て貯蓄の習慣を有せざる民衆は、賣れば直ちに買ふの必要に迫らるゝのである。日本は米英蘭佛諸國に代りて、此等の必需品を彼等に供給せねばならぬ。軍票の信用を裏書するものは必需品の供給である。茲に於てか日本は軍需品の製造に忙殺せられながら、雜貨綿布スフ等々を南方への輸出品として生産せねばならぬ。其の爲に日本人はヨリ多く働かねばならぬ。綿布の如きは其の原料なしとせば、原料の生産から着手せねばならぬ。それが間に合ふまで取り敢へず、我等の消費を一層節減し、貯藏を搬出して、端境を繋がねばならぬ。茲に於てか南方より必需品を得るにも、先づ我等の忍苦、儉約、勉勵を代償とすべきを忘れてはならぬ。更に問題となるは南方との移出

入に用ふべき船舶である。政府は其の急造を聲明して居るが、我國の造船能力と造船資材には限度があり、之を克服するには、更に又國民の忍苦と努力とを要請せねばならぬ。日本はもとより上海、香港、マニラ、シンガポール、バタビア、ハイフオン、サイゴン等一切の造船設備を活用するであらうが、破壊設備の再建には機材が要り、技術が要り、勞力が要るのである。鐵板を用ひずしてチーク材の木造船を作り得べしとするも、そこに技術を要し勞力を要するは同様であり、竣工せる船舶を動かすには船員を要し、石炭を要し、其の石炭の増産の爲にも再び復た資材と勞力とを要するであらう、斯くの如く考察する時、我等は共榮圈より「得る」を思ふに先だち、直ちに「與ふる」を覺悟せねばならぬ。然らば戦勝の結果は急に國民生活の安易を齎らすものでなく、却て希望ある苦難を増大するものである。此の苦難を克服するには大處高處よりする總括的計畫の確立と、之を實踐遂行すべき國民的大努力を要すること萬々である。

## 英國のインド強奪

英國は亞細亞を侵略せる際、一切民衆に與ふることを爲さずして、取ることを恣にした。英國が機械生産力を背景とし、自由貿易主義を振り翳して、手工國たり農業國たる亞細亞を搾取したと云ふのは、英國的偽善に基く皮相の説明である。英國は最初單なる強盜行爲によりて亞細亞の富を奪ひ取り其の富を以て彼等の産業革命を完成したのである。英國人が始めて印度に入つた時、印度は支那と共に世界最富の自給自足國で、其の富の基礎は見事なる工業製品であつた。絹製品、綿製品、カシミヤのシヨール、アーメダバッドの錦欄、ダツカのカモスリン、其他陶器、寶石細工、貴金屬細工等の名聲は全世界の市場に轟いて居た。英國の強盜は斯の如き貴重品の陳列場に闖入したのである。英國は當時「貧乏ながらの野心國」であつて、投資すべき富もなければ、交易すべき製品も持たなかつた。そこで彼等の搾取は自由經濟に據るのでなく、掠奪と詐取と徴發とを常套手段とした。史家の記述する所によれば、東印度會社の梟雄クライヴがブラツシイの戰によりて、英國の基礎を確立せし一七五七年よりウオターローの戰を経て一八七四年まで約百四十年間に二十五億ポンドを盗んだ事となつて居る。之を今日の貨幣價值に引き直せば何百億ポンド、何千億圓とも云ふべき巨額で

ある。ナポレオン戰爭の頃、英國の國富は二十五億ポンド、國民所得は三億ポンドと云はれて居るから、英國は其の全國富に等しき富を印度から暴力によつて奪取したのである。英軍の勝鬪を擧ぐる所、何時でも其の戰場に何哩に亘りて、印度兵及び印度良民の慘殺死體を並木に吊し、凄愴眼を掩ふに勝へざる光景を演出した。英國は十八世紀の後半に於て産業革命期に入つたが、其の産業革命を可能ならしめしものは、ブラツシイの戰爭以前から夙に取り立てられた印度掠奪の惡財である。英國は印度より奪ひて産業革命資金を調達し、其の産業革命の優越を武器として、再び英國流の經濟搾取を本格化したのである。英人は曰く、印度には産業の見るべきなく、住民の九割までは窮乏せる農民に過ぎないと。此の印度の赤貧は上天の宿命ではなく、實は英國の強盜行爲と經濟搾取との然らしめるものである。

### 經濟工作の緒戰的任務

日本が新に指導せんとする大東亞地域は、濠洲、ニュージブランドを除きても優に印度に匹敵する。其上に印度の如き固有の文明と工業とを有せず、資源地としては絶

好の條件を具備せるものである。併も其の國土は屈曲に富む海岸線と相繞帶して、大陸の利便數ふ可らざるものがある。然れども此等の地域は久しく英、米、蘭の搾取の對象となり、其の天産は英米資本主義の搾取的便宜に準じて、甚だ偏奇なる開發に歪められて居る。日本は此等の地域に土着諸民族を誘導して、開發し増産し共榮せねばならぬ。其の英米資本主義搾取の對象たる英米依存的階層構成を改造して、大東亞共榮的なる自給自足階層構成を完成せねばならぬ。日本は差當り戦力培養の資材を獲得するとしても、英國流の強奪と搾取とは絶対に之を避け、過渡的施設を通じて、結實的計畫の礎柱を据ゑ込まねばならぬ。想ふに皇軍の到る所、大東亞諸民族の歡聲湧くであらうが、其の治安が恢復すると共に英米依存機構より切斷さる過渡期の苦痛は、漸く大衆生活の各面に感ぜらるゝであらう。日本が其の際若し過渡的困苦を醫すべき對症療法を施し得ないならば、新秩序建設に對する最高目的を理解せざる現地民族は、索然として日本に對する興味を喪失し、或は怨嗟し、或はサボタージュして、日本に對する協力を躊躇するであらう。今やビルマ兵は日本軍に協力し、比律賓志士は日本政治に合作し、ゲリラは其の鋒先を英米勢力の追討に差し向けんとしつゝある。斯

の如き彼等の協力を強化し、彼等の元氣を鼓舞し、彼等の信頼を増大するは、實に日本經濟工作の緒戰的任務である。此の緒戰的任務にして完遂せられんか、大局の勝利を制すべき第一陣地は已に獲得せられたるも同然である。

大東亞地域はゴム、米、砂糖、麻、大豆、コブラ、落花生、茶、珈琲、木材、藥草等々の植産物、石油、鐵礦、錫、タングステン、マンガン、クローム、ボーキサイト、ニッケル、銅、鉛、亞鉛等々の鑛産物を無限に産出するが、英米資本主義の搾取計畫は、完全に此等天産物開拓の割り當てを支配し、遂に現地民族を拘束して英米依存を餘儀なくするに至つて居る。大東亞諸民族は自己を英米の暴壓より解放すべく、先づ米英の計畫に基づく搾取體制を打破せねばならぬ。英米はこれにより食料と原料との取得を遮斷せられ、急轉直下して持たざる國の悲哀を滿喫するであらう。大東亞諸民族はこれによつて當分經濟生活の混亂に悩まざるであらうが、此の苦難を克服して後始めて自主的經濟體制の樂天地を建設するを得るであらう。佛印、ビルマ、馬來、比律賓、英領南洋、蘭印を通じて、其の生産の共榮的編成替を完成する時、此等各地の産物は互に交換せられ、相率ゐて一體の繁榮と幸福とを増進すべきは

自然の理數である。況んや大東亞共榮圈は日本をも中樞として滿洲國をも新生支那をも包含する以上、寒熱の氣候風土に準じて、南北一體の經濟的階層構成を完成するは、甚だ自然の方則に合致する所以である。南洋各地は水陸相交り、最も海運の便に惠まるゝのみならず、日本、滿洲を併する全面的運輸交通關係を見るも、大東亞が經濟的に運命共同體たるは疑ふ可らざる事實である。英米が遙かに萬里の波濤を冒し來りて、大東亞を侵略し、軍事的暴力に次ぐに經濟的暴力を以てし、南洋を日本より遮斷して、そこに英米支配圈を延長せしは、抑々地政學の見地よりするも、甚だ不自然なる人爲工作である。今や英米は運命の理法に制せられ、大東亞より退場せんとして居る。大東亞は自然の陽光を浴びて、文化的に經濟的に産業的に甦るであらう。併も英米蘭は斯の如き豊富なる天地に、約百億の投資を置土産として残して居る。之に華僑、佛印、日、獨等の投資五十億圓を加算せんか、約百五十億の既設投資は、其儘に働きて我等の利用を歓迎せんとして居る。此の物あり、此の資本あり、而して物を支配し、資本を造出すべき天才と努力との無限なるあり、大東亞は日本の指導を待ちて、眞に前途洋々たるものがある。

### 雄渾なる經綸を確立せよ

獨逸國家主義經濟學の鼻祖フリードリッヒ・リストは、萬卷の書を讀破した後、開拓途上の米大陸に押し渡り、飄然悟る所ありて、其の書冊を抛ち、活世界の活現象を讀破して、學問の眞理を其間に捕捉せんとした。彼は曰く、經濟學の最善の著書は現實生活に動かされつゝある新世界そのものである。そこには廣野に繁榮が生れ、それが強大なる國家にまで成長しつゝある。歐洲に於ける數世紀の進歩は、一瞬の間に新大陸の眼前を通過しつゝある。獵師は忽ちにして牧夫となり、又忽ちにして農民となり、更に又產業家となり、商業家となりつゝある。周到なる觀察眼を現前の事象の上に注げ、先入的學説は却て我等を迷はすに過ぎぬと。彼は森羅萬象を讀破して、英國の自由主義を爆撃せし最初の國家主義學説を構成し、別して國家永遠の隆盛を保證すべき廣域經濟の必要を痛感し、此の經濟圈内に於ける交通運輸の利便増進こそは、經濟上、人文學上、非常の影響力を發揮する所以なるを力説した。併も彼は國家の最も要する所は、財に非ずして財を生ずる國民の生産能力なりとし、特權と資源の上に眠

る國民は、遂に衰亡の悲運に逢着するものなりと警告して居る。今や日本人は大東亞の新天地に踏み出しリストに隨ひて開け行く國土に於ける人間生活の諸現象を讀破すべきである。而して活達雄渾の經綸を此の間に確立し、日本の活路を大東亞の共榮に見出し、大東亞に立脚して樞軸に世界に寄與せねばならぬ。かくて飽くなき進展の過程に、國民の能力を、生産力を、益々發揮し益々修養し、以て民族永遠の繁榮を保證せねばならぬ。我等は島國的、封建的偏見を、大洋の波濤に洗ひて大東亞的、世界的達見に開眼せねばならぬ。南洋は土地廣大にして天産豊富に、氣候暖熱にして、風俗自ら寛濶を愛するものである。そこには北方に發達せしマルクス流の物理的拘束は適當でない。昔漢の高祖が關中に入るや、法三章を提げて民に誓つて曰く、人を殺す者は殺さん、人を傷け及び盜む者は罪せん、餘は悉く秦の苛法を除き去らんと。これは秦の霸道的法令萬能主義に對して、王道の根本的基調を示せるものである。紙上計畫と草上命令を細密にして、南洋の悠々たる事物を律するは能事でない。當局者は大局の計畫を確立して大東亞建設の輪廓を示し、其の餘は有能勤勉なる日本國民の獨創を解放して、到る所の新天地に現地民族と融和提携せしめよ。自然の要求は、有爲なる

國民をして、其の進むべき道を發見せしむるであらう。

## 六、大戦争下の國民運動

日本國民は皇紀二千六百一年十二月八日以後、希望なき倦怠を脱却して、光明なる苦難に直面した。世人は動もすれば言ふ。東方會の主張は遂に其の實現を見るに至つた。東方會の役割は完了した。其の運動には名譽ある終止符を打つてよいでないかと。我等を以て之を見れば、それこそ憐れむべき自由主義的、メカニズム的、皮相的俗流の見解であつて、我等は斯の如き見解を生ずる淺薄なる思想を克服せねばならぬ。日支事變勃發以來、東方會が提唱し來りし大東亞政策は、決して偶然の思ひつきが圖に當つたのではない。我等は我等が主張せし政策そのものよりも、その政策を生むに至りし我等が若き魂のひらめきに誇りを感じずる者である。此の魂の源泉を涵養し、滾々として盡きざる清新の流れを放出することが、更に我等に課せられたる重大任務である。

## 反動的壓力の強化

五四

國策の大本は既に決定した。政府は嚴として上に存し、諸機關は整備せられ、人員は配置せられ、無限の國費は、無限の愛國心によりて、多々益々辨ぜらる。東方會は大機關なく、大人員なく、別して機關と人員とを動かすべき費用もない。これを物理的に、平面的に觀察すれば、そこに精密なる調査も、卓抜なる見識も、澎湃たる大運動も、決して期待することは出来ぬ筈である。然れども舉國一致にて支援せし政府は十二月八日以前にも嚴存して居た。平沼内閣は東條内閣より國民に對して凄味を示し、近衛内閣は諸般のゼスチュアに於て、何れの内閣よりもモダンであつた。然るにそれ等の内閣の下に、英米依存と現状維持との惡思想は全日本の上層機構に充滿し、非常時の掛聲はいやが上にも反動的壓力を強化して、凡そ良心と感覺とを有する者は其の鬱屈伸ぶるに由なく、世を擧げて憂悶に勝へざる情勢ではなかつたか。對米英宣戰以前、東條内閣が率直に公表せる對米交渉の經過報告を精讀すれば、如何に我が方の謙讓にして、如何に彼が態度の暴慢なりしかに驚かざるを得ない。若し米英の

支配者にして多少の常識あり、日本の交渉條件を鵜呑みにして居たら、日本の立場はどうなつて居たらうか。外には國運の大崩壊、内には人心の大動搖、眞に收拾すべからざる難局に逢着して居たであらう。然るに嚴然たる威容を備へ、整然たる百僚を従へ、機密なる情報に接し、周到なる調査を有する筈の當時の内閣は、斯くの如き愚にもつかざる對米交渉の成立を可能なりと信じ、之に反對する一切の批判と運動とを彈壓して、只管舊體制に膠着せんとして居たではないか。これ實に獨善的頭腦にて構想し、役所の卓上にて計畫せしことが、如何に現實の脈搏に觸れざる一場の夢なるかを示す適例ではないか。國運の興亡を決するが如き重大問題に對しては、事務に拘束せられたる官僚的智性よりも、民族の傳統に養はれたる國民的感情の方が、常に正確なる判斷を下し得るものである。かゝる場合大衆の無智無批判なるを吹聴して、獨善的指導の必要性を高調するは、事の真相を見誤るものである。誤れる理念を有する國家權力が獨善的支配を恣にする場合、言論報道機關は擧げて屈從的體制に編入せられ、夜を日についで淺薄愚劣なるサービス宣傳を事とするのみならず、多年の經歷によりて廣く民間に客觀的信頼を有する權威者の執筆さへ、末梢官僚の氣まぐれによりて容

五五



赦なく抹殺改刪せらるゝの甚しきに至るが常である。斯の如き環境に於て此等俗流新聞の阿片を満喫せし一般大衆が、時局に對して眞の認識と判斷とを有し得ざるは寧ろ當然である。彼の獨善者流によりて唱へらるゝ所謂大衆の無智は、多くの場合國家權力階層の頑冥と惡指導とを反映するものに外ならない。自ら民を愚にして其の頼み難きを説き、拘束するに桎梏を以てし、鞭撻するに笞杖を以てし、懲戒するに酷罰を以てするは、決して陛下の赤子を保する者の態度でない。大衆は誤れる權力者の惡指導によりて、一時或は其の眼を掩はるゝことがあるであらう。或は倦怠より昏迷に陥ることもあるであらう。然れども其の惡指導の惡結果が漸く顯著なるに及びて、先づ本能的に之を感得するは、所謂愚衆であつて、最後まで自覺せず、執拗にも自己の惡指導に膠着するは大衆と感覺を同じうせざる權力階層である。

### 草莽の同志組織

大東亞戰爭の決意は、聖明の英斷と、民族本能の自覺とに基くものであつて、權力階層は上と下とに向つて感謝の念を捧げねばならぬ。東方會は政府の如き權力を有せ

ず、機關を有せず、役員を有せず、尨大なる調査室を有せず、唯一片の赤心、已むに已み難くして、自然に結集せる草莽の同志組織に過ぎない。されど唯それ、天皇と國家とにのみ奉仕して、一切他の拘束を受けざるが故にこそ、素朴なる大和魂は同志の間に躍動し、事に臨みて烈々たる光焰を放つものである。大東亞建設、英米打倒、即時南進の主張は、役所の卓上に生れず、御用機關の研究室に發せず、實に東方會の弊屋破窓の下、同志が切磋琢磨の研究より出でし捨身の提案である。尨大なる調査機關、整備せる官僚機構、そこに一代を指導すべき先驅思想が案出せられずして、それが東方會のバラック屋根の下に發生せしは、物理的解釋によりて證明せらるべき現象でない。それは尊王の大義が京都の青公卿によりて提唱せられずして、草莽の臣高山正之によりて絶叫せられしが如く、海國兵談が幕府の御用學者によりて編纂せられずして、家なく妻なき仙臺の六無齋林子平によりて世に問はれしが如く、高貴なる精神の時勢に對する開眼に外ならない。高貴なる精神は凡俗なる智性に先驅して時代を直感し、端的に民衆の中に突入して、彼等に内在する本能の自覺を喚び起すものである。東方會が斷乎として南進を提唱せし時、現状維持的權力階層は之に激怒し、一般

大衆は目を睜りて怪奇の思ひをなした。されど民衆本能の觸角は漸くにして眼前に露呈せる諸般の現象を模索し始めた。而して東方會の主張は民衆の感覺によりて遂に素直に肯定せられた。かくて民衆の感覺は確信にまで成長し、熱情にまで昂進した。嘗て自分は日比谷で演説した際、民族意識と大和魂とに基づく正しき主張は、如何に當局者の彈壓に遇ふも、如何に俗流新聞に默殺せらるゝも、此の會場の聽衆を搖り動かす、其の高揚せる國民感情は此の公會堂の戸の隙間を通じて、滿天下の同胞に働きかけ、遂に滔々として何物も遮る能はざる國民的思潮の奔流となるであらうと絶叫したことがある。誠に其の通りであつて、最初東方會の純真なる同志によりて提唱せられたる主張は、遂に全國民の熱狂的支持を獲得し、數萬の大衆は到る所の大會に殺到して、富貴も權勢も之を彈壓する能はざるに至つたのである。乃ち我等の主張は草莽の所産であり、草莽の先驅であり、我等は大衆に喚びかけて其の心境を開拓し、翻て大衆の情熱に鼓舞せられて、自己の推進力を増大したのである。我等は確信し、提唱し、推進し、奮闘した。されど闘争の中途に於て如何に屢々自信の動搖を來し、黨をあげて虚脱状態に陥らんとせしことか。斯の如き場合、同志に對して新なる活力を供

給せしものは、毎に我等によりて啓蒙せられし大衆であつた。佛蘭西の老首相クレマソウは八十に近き老軀を提げて屢々最前線を訪問し、若者と共に塹壕の泥にまみれることによりて、議會政治の疲勞より恢復したと述懐し、タンネンベルグの鬼才ホフマン中佐は、前線にて戦袍に滲み込む煙硝の臭ひこそは、名將の才幹を育つる營養なりと語つて居る。然り、東方會をこれまで推進し來れるものは、實に此の前線精神と大衆的情熱とであつた。想ふに社會を動かす根本方則は十二月八日以後と雖も其の以前と變りはない筈である。政府は確定せる國策の線に副ひて一路前進せんとするであらう。されど十二月七日まで日本上層機構に充滿せし英米依存主義の亡靈は、長期戦に伴ひ、動もすれば其姿を變へて人心の虧隙きびに忍び入るであらう。民衆もまた緒戦の花々しさと異なる長期戦の陰鬱さを體驗して、或は不安と焦躁とに驅らるゝであらう。斯の如き場合、眞に國民の脈搏に觸れざる形式一遍の訓示的愛國指導が、漸くにして國民の感激を失ひ、或は却て逆効果を生ずるに至ることは、前回大戦に於てカイゼルカイゼルの獨逸が滿喫せし苦き經驗である。

## カイゼル獨逸の統制經濟

カイゼル獨逸が大戦の濁流に捲き込まれし時、其の政治は全く舊體制であつた。此の舊體制を支配するものは、ウキルヘルム二世を中心とする貴族、軍閥、官僚の一黨と、各派の自由主義的議會勢力とであつた。貴族、軍閥、官僚は開戦と同時に忽ち強權的愛國主義を振り廻して派閥的立場を強化せんとし、老獺なる議會人は右派も左派もこの勢に便乗して、取り敢へず天賦羅的舉國一致體制を結成した。若きヒットラーが戦線に於て描きし感想によれば、此等の上層要人等は久しきに亘りて國策を誤り、精神的に全く無準備のまま、最悪の時機に國家と國民とを戦争の災厄に投じたものである。ヒットラーは本來民衆に對して懺悔すべき筈の此等要人等が、一かどの指導者を氣取りて、温順なる民衆を叱つたり勵ましたり訓諭したりするのに對し、眞に嘔吐を催したくなつたと述べて居る。それでもカイゼル獨逸は戦時の要請に戦じ、次から次に其の統制經濟を強化した。先づパンの暴騰を警戒してパンの價格を公定し、それと間に合はずして穀物の價格を公定し、次に日用必需品の全價格を公定し、そこに暗

取引が行はるゝを見て配給、消費、生産までも統制し、戦争勃發後約一年後には國民經濟の殆んど全分野に統制を擴大した。されど其の所謂統制經濟は一定の理念と計畫とに出でたものでなく、必要に迫られて加速度的に便宜主義を前進せしめたものである。固より當年の獨逸官僚もイデオロギイを叙説しなかりはなかつた。併し此の經濟理念を全面的に推進すべき國民組織を有せざる時、其の實行は統制官僚の事務的便宜に基づく物理的一元統制に墮せざるを得ぬ。乃ち官僚の意圖に迎合するユダヤ的御用資本は大に跋扈して純正なる生産資本は退避し、そこに民間の便乗主義と官廳の恩寵主義とは結合して、惡質の特權資本主義を形成するに至つた。ヒットラーは此間の消息を「我が闘争」に於て叙述して曰く、「經濟に於て事態は一層惡かつた。此處ではユダヤ人共は『無くてはならぬもの』となつた。彼等吸血鬼共は國民の血をその毛穴から得々と吸ひ初めた。彼等は諸種の軍事會社を通じて、國民的自由經濟を漸次破壊せしむるの手段を見出した。其處では無限の資本『集中』の必要が力説されてゐた。斯くて一九一六年——一七年には既に殆んど全生産がユダヤ人金融資本家階級の支配下にあつた」と。當時獨逸は未だ共產主義、社會主義の獨逸とはなつて居ないで、官僚

主義、自由主義の獨逸であつた。其の官僚主義が法律規則の物理的壓力によりて統制經濟を完備せんとする時、それが唯物主義となり聚産主義となり、サービスの、ユダヤ的、不良資本の獨占形態を助長するに至るのである。自由主義の憎惡せらるゝは、自由競争による生産力の活躍が憎惡せらるゝのでなく、自由競争の結果獨占資本が出現し、民間の發意と獨創とが封殺されるゝことが憎惡せらるゝのである。然るに獨逸の官僚統制は自由主義の弊害を矯めずして、却て其の窮極の惡結果たる獨占資本の形成を促進した。併も其の獨占資本たるや自由競争の試煉によりて實力の優秀を立證したものでなく、無智なる官僚の趣向に投じ、巧に權力階層に阿附迎合して、其の獨占的地位を獲得したものである。ヒットラーは之をユダヤ資本と稱して居るが、其のユダヤ的なる性格は權勢に阿諛して、其の恩寵に浴せんとする町人根性の別名である。カイゼル獨逸は東西南北の全戰線に惡戰苦闘しながら、漸く最後の決死的總攻撃に出でんとする際、内部に累積せしユダヤ的獨占主義の弊害に堪へずして、遂に社會的破綻を暴露したのである。畢竟獨逸の官僚統制は惡質資本主義の弊害を助長して、公式通り共産主義的革命を招來したのである。

### 便宜主義と町人根性

日本は舊體制を打破して、新體制を確立せんとする過渡期に於て、大東亞戰爭の最唯中に幕進した其の統制經濟がカイゼル獨逸の轍を履まざらんが爲、當局者は機會ある毎に民間の獨創力を尊重すべきを聲明して居る。然れども官廳が自由主義財界に號令して、只管統制を強化する際、そこに官廳の便利主義と民間の町人根性が相互作用して、ユダヤ的、サービスの、特權資本形態を造出するの危險あるは、寧ろ公式的定則である。若し其の間に官廳の職場意識と町人の利用意識とが、再び惡作用せんか、能率は低下し、經營は硬化し、無能なる經營者が只管官權を利用して獨占利得を追求する結果、遂に消費者を搾取して、社會を窮乏に陥るゝは、諸外國に於て如實に立證せられた所である。所謂重點主義による資本の合同統一と稱するも、これが單なる便宜主義に出づる場合、必然的に大資本の爲の「集中主義」となり、個性あり獨創力ある小資本は、之が爲に蹂躪せられて、多數の眞面目なる者を失望のドン底に陥し入るゝに至るのである。殊に最近我國に於て進捗しつゝある配給統制に於て、此の惡原則の

適用を被らんか、特權統制會社はユダヤ的資本家の謀計の上に成立し、國家權力は其の獨占的利益を保證するが故に、其の經營は放漫となり、其の態度は官僚的となり、敢て消費者の利便を顧みざるのみか、其の中間搾取を専ら生産者に加ふるに及びて、眞に言語に堪へざる虐政に墮するの虞がある。殊にそれが農産物、水産物の配給統制である場合、農民は主張すべき言語を知らず、漁夫は官廳に陳情するの智識を有せず、専ら財界世話掛りの工作が上通し易きが故に、そこにユダヤ的性格の跋扈を容易ならしめ、若し一步を誤らんか、堂々たる統制會社成立して、可憐なる生産者は其の重壓に壓し潰され、遂に統制すべき生産物は出廻らず、廣大なる統制會社の事務室の中、高給を貪る役員等は、手を空しうして爲す所を知らざるに至るのである。我が政府當局者は議會の答辯、官廳の訓示に見るも、盡く我等と憂を共にするかに見受けられるが、我等は類似の社會情勢下に、類似の經濟現象が生長し易きを牢記し、官民舉りてカイゼル獨逸の崩壞に戒心せねばならぬ。

### 同志の忠實なる任務

我々は、列國成敗の跡を検討して、夙に日本社會の情勢に適應すべき、日本的なる經濟革新基本綱領を公表した。其の根本理念に至りては、最近に政府の言説しつゝある所と少しも撞着して居ない。然らば之を標準として、日本統制經濟の實踐を規正するは臨戦下に於ける我等の忠實なる任務であらねばならぬ。戦争の長期化と生活苦の慢性化とは往々にして人心を焦燥化する虞なしとしない。我等は弊害の爛熟するを俟ちて革新の氣勢を煽るが如き不穩の徒に與しない。我等は權力階層によりて、推進されつゝある諸般の施設に對し、民衆の立場にありて誠心誠意其の缺漏を補はねばならぬ。聖慮を畏みて陛下の赤子を保する政治責任者は、田夫にも、野人にも、失業者にも、應召家族にも、大いに聽く所がなければならぬ。我等は社會の各階層を包容する東方會の有機組織を通じて、下情を察し、下意を汲み、我等が理念の篩ひにかけて之を精撰し之を條理化し、我等が報國の熱意を以て之を上通し之を上達し以て大に献替する所あらねばならぬ。東方會は古今上下を貫く日本精神の有機組織である。それが治安警察法によりて政事結社たるは、政府の意思に基きて日本現存法規の適用を受くるからである。決して既成政黨を聯想せしむる舊體制下の政事結社を意味するもので

ない。既成政黨は近衛前首相により國體に相應はしからざる自由主義、民主主義、社會主義に起源するものなりとの宣告を受け、格別抗議する所もなくして、各自解消し去つたものである。我等は日本國體の精華を顯現せんが爲、日本精神の傳統に立脚して全國民的有機組織を活用せんとするものである。斷じて既成政黨の如く自由主義、民主主義、社會主義の極印を甘受するものでなく、況んや又局部的、階級的、派閥的利益を代表して、政權の爭奪に没頭するものでもない。我等の國民組織が完備し、精神的有機體の感覺が直ちに實際政治の運営に取り入れられんか、茲に國民の協同體は始めて「全」と「個」との圓滑なる調節機能を發揮し得るであらう。抑々行政の便宜主義と資本の便乘主義とが、一たび合體して物理的「集中」を促進せんか、それはモメントムの原則により、加速度的に其の災害を増大するものである。これを未然に防ぎて君民一體の實を擧げしむるは、實に我等同志の責任である。東方會は國體的であつて派閥的でなく、全國民的であつて階級的でない。理想に於て全國民を包容するのみならず、官民上下を貫きて有機的一體たらんと欲するものである。然れども運動の推進過程に於て、一億を擧げて會員となす能はざるが故に熱烈なる同志を選りて組織

陣營に結集したのである。故に東方會は窮極の發達を遂げたる際、行政に先行して陛下の大政を翼賛し、全國民の忠誠を君側に上通して、官と民とを規正せんとするものである。是れ實に八紘一字の宏謨に副ふべき、國民的有機協同體の任務である。

### 我等の指導原理

我々同志は、銃後の職域に奉公しながら、大東亞日本國家の完成に就て献身的に努力せねばならぬ。我等は工場に於て模範職工たり、農村に於て篤農青年たり、事務室に於て勤勉なる事務員たり、或は眞面目なる技術者たり、熱心なる教員たり、それが如何なる境遇に置かるゝも、身を挺して困難の先に立ち、斷じて利己的動機に基づく不平不満を抱いてはならぬ。されど我等が奉公は單に職域に於て盡くるに非ず、活眼を開きて國家の大局を認識し、凡そ公事に臨みては、之を擔當する見識と熱情とに於て、敢て一世の師表たるべき矜持を有せねばならぬ。東方會の指導原理は多年闘争の實踐によりて成長せし同志の世界觀であつて、之を方寸に藏め得べく、之を四海に暢展し得べきものである。如何なる文字も綱領も、其の盡くを表現することは出來ぬ

が、同志間に醸成せられし天地正大の氣は發して必ず節に中るを疑はざるものである。東方會青年が振東塾にて鍊成した精神こそ、實に新日本を完成し、大東亞を建設すべき基調である。高貴の精神は勤勉力行の環境に於て成長し、不正と不義とに對しては滿腔の義憤となりて觸發するものである。此の勤勉と此の義憤とは、實に東方會同志をして忠良なる國民たらしむると共に、氣慨ある先驅者たらしむる所以である。其の高節を抱き、其の綱領を提げて、生活戦線の現場に突入せよ。温情を注ぎて應召家族を勞はり、俠氣を傾けて失業者の好伴侶となり、若し彼等に與ふべき何物をも有せずば、彼等の言を聽き、彼等の悩みを察し、せめて彼等の精神的苦痛を分擔せよ。然らば東方會運動を促進すべき感情と義憤とは、自づから自己の胸間に湧き來るであらう。東方會同志に告ぐ、我等の指導原理は既に決定せり。其の眞實性を確かめんと欲せば、學者の著書、雜誌の論文、必ずしも諸君に教へて懇篤なるものでない。それ等は甚だ屢々現實と遊離せる既成の學說に囚はれ、或は官廳と財閥との統計に誤られて居る。諸君は穢れざる童心を以て、體験的に國民生活の實情を踏査せよ。統制會、統制會社、國策會社、配給會社、産業營團が、如何に運営せられ、如何なる能率を發

揮し、如何に國民の生活を支配し、如何に生産者の勞苦に影響しつゝあるか。總てこれ等の實情を、自己の眼を以て見、自己及び隣人の體験を以て判斷せよ。而して翻て東方會綱領の鏡に照さば、諸君は時勢を察し、時艱を救ふに就て、必ずや獨得の見識を立つるを得るであらう。諸君は別して彼の訥々たる漁夫農民と語りて、彼等が素朴なる陳述の間に、點々として輝く珠玉の眞理を摘出編纂せよ。彼等の切實なる要求と嘆願とは、必ずや上天の聖音と合致するを發見するであらう。政府は中間搾取を取り除きて、生産者への標語を掲げて居る。されど第一次生産者たる農民と漁夫とは、其後果して厚遇せられつゝあるか。尨大なる官設的配給機構は果して其の能率を發揮し、中間搾取を輕減し得たであらうか。語る能はざる者の爲に語り、訴ふる能はざる者の爲に訴へ、以て天下に正義を布くは、我等に課せられたる聖なる任務である。

### 無聲無臭の體當り

東方會は單に本部より發する卓上指令を以て、萬般の國民運動を律するものでない。東方會綱領は本部より出で、全國を武者修行し、同志諸君の體験に養はれて、其

の堅實味を増し、實行性を長ずるものである。同志諸君は民間に於ける涓々の滴りを集めて、滔々の流れを形成せねばならぬ。至誠を傾け、實情を審らかにして、國民思潮の動向を善導するは、我等に與へられたる大戦下國民運動の任務である。政府の行政的施設は、平面的に國民生活を規正し得るが、無形の人心を誘導して惡思想の萌しを絶つには、組織的形態を確立せる國民運動の出現を必要とするのである。殊に今日の如く米英の思想謀略と共產主義の潜行的攻勢とが最も嚴戒せられざる可らざる際、東方會の理念と組織運動とは之を擊滅するが爲にも、絶對不可缺なるを自任すべきである。舊體制は行政處分を以て打破し得るものでない。一定の理念と確信とを存する熱烈なる民間の組織運動によりて代位せらるべきものである。固より我等は大戦下の國民運動に於て、其の言論を自律的に制限せざる可らざるを痛感するものである。されど我等の主張は必ずしも其の全部を擧げて、大道に放言するを要とするものでない。之を提げて當局者に献言し、之に則りて大衆を説得し、別して我等同志が實踐的善行を通じて民衆を、官廳を、政府を根本政策を建設的に動かせばよいのである。我等は言論と共に實踐を以て國民運動を滿天下に展開せんとするものである。一の善行

は百の宣傳に勝る。東洋の聖典は德行し傳播し易きを形容して、上天の載は無聲無臭、至れりと聲明して居る。我等は愛國の至誠を捧げ、難局打開の爲無聲無臭の體當りを敢行せんとするものである。(完) (一七・二)



昭和十八年九月十日印刷  
昭和十八年九月十五日發行

再版(5,000部)

戰爭に勝つ政治

定價 四十二錢

特別行爲稅相當額

賣價 四十二錢

(出版會家認)  
4250781

不許  
複製

著者

東京都澁谷區代々木町八〇八番地  
中野正剛

發行者

東京都牛込區攝場町八番地  
河野金昇

印刷者

東京都牛込區攝場町八番地  
武宮敏一

發行所

東京都牛込區攝場町八番地  
武藏野書房

文協會員番號一三三五〇五番  
電話牛込(34)五一八一番  
振替東京一九〇六九二番

配給元

東京都神田區  
渡廊町二ノ九

日本出版配給株式會社

印刷・東京印刷所(東東291)

田中惣五郎著  
越北草葍維新史

B6 上製六一四頁  
價 三・八〇千・三〇

法學博士尾佐竹猛氏、文部省維新史料編修官藤井甚太郎氏、前帝國編修官渡邊幾次郎氏等權威者漁賞ノ幕末庶民勤皇運動史

獨ソ戰とソ聯  
雷 擊

竹尾 式著  
價 二・二〇千・二〇

海軍中佐 早川成治著

價 二・六〇千・二〇

近 北 榎 聞 略  
刊 見ソ聯より見たる 西南亞細亞  
(光太夫ロシア見聞記)

竹尾 式譯  
價 約 二・五〇  
ソ聯邦商業會議所編纂  
中亞問題研究會  
A5 上製 價 三・〇〇

442  
218

賣價(税込) 42